

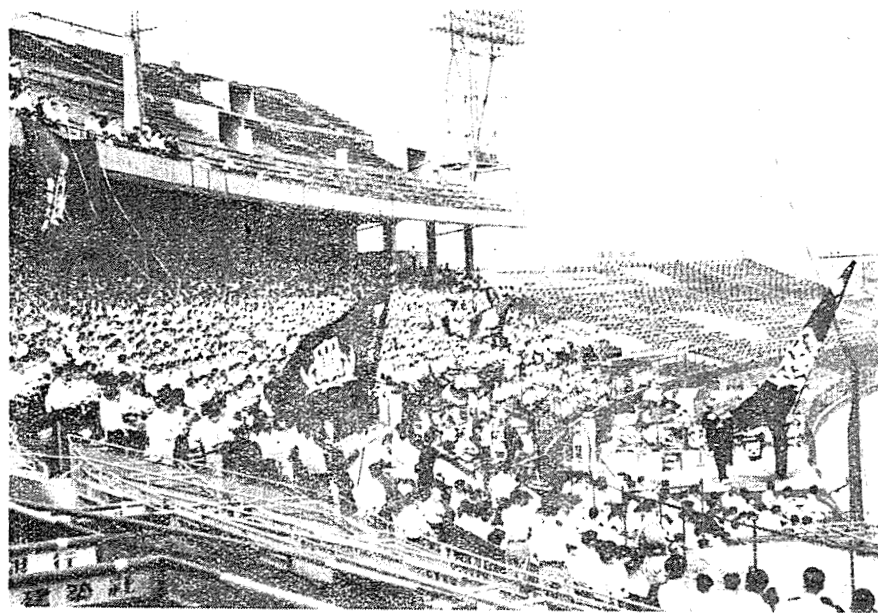
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, July 15th, 1953. No. 261

關西大學學報

第 2 6 1 号

昭和 28 年 7 月



青春讚歌 (関ヶ原決戦に於ける応援隊)

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
復刊第三一号(通卷第二六一号)
昭和二十八年七月十五日發行(毎月一回十
一發行)

關西大學學報局

校友總會開催に當つて

理事長 白 川 朋 吉

本日校友会總會を開催せらるゝに當りまして不肖私が理事長として御挨拶を申し上げる機会を与えられました事は洵に光榮の至りで御座います。

御承知の如く昨年十月選挙によつて私如き老体が理事長の榮職を汚す事になりましたが卒業生在校生五万人の心のふるさとである母校の隆替と先人の苦心經營せる母校の隆替とを双肩に担いよく其の重責を果し得るや否やを考えまする時に重大なる決意を促されるので有りますかて加えて近く母校創立七十周年の意義ある年を迎えようとする際其の感の態々重大なるを覚えるのであります。

凡そ大学の価値は其の教授の価値によつて決定されるものであることは御承知の通りで有りますが本学も教授の質量の拡充強化に至大の関心を寄せ二十八會計年度におきましては教授十名助教八名、専任講師五名、助手十七名の増員を予定して私立大学の權威としての実体を備えたいと念願しておるのであります。他面教授をして學問に専心して頂く為めには生活に後顧の憂の無い様にせねばならないのであります。本学は其の点官公立大学に比較致しまして遺憾の点がありますので此の点につきましても二八會計年度予算に於て相當の増俸を断行する事にしたので有ります。又事務職員に就ても同じ事が言えるので有ります。此の点にも適當の処置を予定しておるので有ります。

以上の様に大学の實質的な強化を図りますと共に教室其の他の物質的設備に於ても近代の大学として辱しくない様措置したいと存じまして建築面に於て次の様に予定しておるので有ります。

第一は関西大学第一高等学校の校舎を千里山花壇に新設其の規模は三階建七百八十五坪工費三千三百万円竣工予定は来る十月となつております。

第二に従来二部学生は一年次を天六に二年次以上を千里山に收容しておつた

のであります。が学生の時間的經濟的のロスを防ぎ完全なる教育を実施する必要上此の四月一日から二部学生を総て天六に收容する事になりましたので天六学舎の増築を計画して規模五階建三百七十八坪工費三千万円竣工予定は十月となつております。

第三に千里山法文学舎の増改築計画であります。これは凡そ三期に分ちまして第一期は規模三階建千五百坪五合八勺この工費六千九百七十万円竣工予定は昭和二十九年二月頃第二期は三階建三百二十四坪工費二千六百六十三万円竣工予定は昭和廿九年五月頃第三期は現在の法学部本館を取り除きまして其の後三階建千二百坪工費八千万円竣工予定は昭和三十年の三月迄としておるのであります。その他に本年度の計画として尚志館の改造増築を計画致しまして其の規模は三百二十坪二階建工費五百二十万円竣工は本年九月の予定であります。

教授の研究室は大学の実体完備の爲めに欠く可らざる設備で有りますが現在僅かに十八研究室であります。これが拡充は予算の關係も有りますので経商學舎以文館大学院ホール並に最近購入しました松田邸を改造して二十三研究室を増設合計四十一研究室となるのであります。この研究室は臨時的なもので有ります。校舎の増築を完了し次第近代的な設備を持つ研究室を新築したいと考えておるので有ります。尙学生会館体育館等の設備も大学財政の見通しのつき次第建したいと考えております。

右の様な計画の爲め凡そ二億円に上る借款を予定しております。此の点は今まで借金無しの大学財政に重大なる変更を見るので有りますが周密なる償還計画を立てあやまちの無い様に善処したいと存じております。

以上概略であります。が本年度並に将来の計画を御説明申し上げたので有ります。が私は八十の老軀に鞭打ち最後の御奉公として死力を尽して母校の發展の爲め与えられました任務を達成しようと考へておるので有りますが言うまでも無く私人の力では到底其の責務は完う出来ないものであります。

すべからず校友諸賢の衷心よりの御協力を御叱正を賜らねばならぬと思つたのであります。何卒よろしく御指導の程を御願申上げまして私の御挨拶を終らして頂きます。

校 友 總 會

昭和二十八年校友總會は、新緑薫る母校千里山学舎で、六月二十一日(日曜)に開催された。前日來の雨に天候が憂慮されたのであるが、奇蹟と云うか、カラリと晴れた好天気で、雨に洗われた緑の木立、学庭が清々しく眼に映る。

会場は最初、商学部の大講堂が予定され、次に外苑の野外劇場も良からうと云う話もあったが、出席通知のあつた校友全部を收容し切れないと言う嬉しい悩みに達着して、俄かに其の計画を変更し眺望の良い経・商学部の露台上に本決りとなり、其処に千人收容の真新しい大テントを組立て、大学の紋章入り幔幕でその正面を飾つたのである。早朝、中央テンプルの大花瓶に挿された人待顔の活花が風に微かに揺れている、太陽が紫色に霞んだ生駒山脈の彼方から快よい日射しを浴びて来た。

午前九時には五十名の係員が全員勢揃ひの上、夫々の部署に待機する。纏て学内放送が始まつた。学歌、学生歌が放送部から幾度も幾度もマイクを伝つて学苑の空気に流れる、その頃、次から次へ、大学前停留所へ阪急電車から吐き出される校友が、陸續と、想出も懐しい桜並木

の大学通りを、一団となつて学園に到着する。来て見れば昔恋しい、なだらかな千里ヶ丘の陽の輝き、小鳥の囀りが校友の心を、夢多かりし学生時代に導く。



受付の経路(午前九時半)

三々伍々、開会前の寸時を惜んで、新装成つた教室、モダンな大学ホール、研究室、体育実技場を見学する。又外苑の高台に昇り若葉の下を逍遙する人、静寂な池畔に佇む人、グラウンド内に励む現役学生のスポーツの練習に見入る人等々……しばし恍惚としてゐる。

斯くして、全国から参集した校友は西は鹿児島、福岡から、南は高知、愛媛から、北は富山、金沢から、東は東京、名古屋の地方から、遙々と集立ちした親の眸を慕つて、羽ばたき帰る千有余名の大家族の集ひとなつた。

校友席がみるみる裡に満員となつて、涼しさを予想した野外会場も、さすがに

大テント内は、久々の交歓に沸き返る校友の気焔で蒸し暑い程である。

午前十時、芸術院賞受賞者村野藤吾氏設計に係る、経・商学部教室で、代議員会(別項記載)が開催され、茲で本日の議題が承認され、愈々午前十一時、待望の校友總會の幕が切つて落された。



副 会 者 抜 擧 (向つて左は副会長)

報告があつた。

議事に入るに先だち、議長は満場一致を以て副会長の一任となり、中務平吉氏指名を受けて總會議長となる。

第一議案……会則改正の件は安井校友課長より、左の通り縷々説明があり、夫々其の承認があつた。

旧会則の一部は、現在の実状に即しない故を以て、その箇所を改正する必要のある旨を述べた。即ち

(A) 第二章第五条、会員の資格に於て、其の条文に、従来財団法人とあつたものを、学校法人に組織変更の為、当然法人変更の文字の訂正が必要であること。

(B) 旧教職員をも、新に校友に加えること。

(C) 推薦校友が、校友会常議員会に於て、推薦し得ることになつてしたが、今般学校法人関西大学の憲法たる新密附行為の制定に基き、理事会が之を推薦することになつたので、其の抵触を排除する為、校友会則を学校法人密附行為に一致させること。

以上に就いては、新条文案を左の通り朗読して其の承認を求めた。

(第五条) 左の資格を有するものを会員とする

一、学校法人関西大学の設置する学校又はその前身である法人の設置した学校若しくは関西法律学校を卒業した

先づ、司会者三島律夫氏より名調子を以て、本日總會開催の宣言並びに其の経緯に付、説明あり、会長(病氣欠席)挨拶は副会長原田鹿太郎氏より代つて述べられた。次で校友会常議員會議長中務平吉氏より、校友会館建設に関する事、母校評議員選挙に関する事、校友名簿発行に関する事等の事業、並びに会計

者

二、前号の学校の役員教職員及びかつてこれらの役職にあつた者

三、推薦校友

(第六条) 会員の会費及び入会費は当分削除とし、その目的たる校友名簿の発行学報配布等其他を行う為に必要な費用は適當な方法で徴収又は受入すること。

第三章第八條 校友会評議員とあるを新しく制定された学校法人関西大学評議員との混同を避ける為、校友会代議員と訂正すること。随つて各条文に亘り同名の字句あるところは同様に等しくすること。

第四章第十八條 定時総会は毎年一回大阪でこれを開くとあるが「大阪で」の文字は、地域的に甚だ狭い嫌ひがあり、適當なる場所で開催出来得る様、その三字を削除すること。

等であつた。而して案文の字句修正は議長一任となる。

第二議案 役員改選の件は、三島司会者より、全校友より三百名の代議員を選び、その代議員中より三十名の常議員を互選、副会長は常議員会でこれを推薦する旨を述べた。

依て石川支部長、中西与七氏より「代議員選出は議長の指名による十名の特別詮衡委員により選出されたい」との発言あり、次で阿部甚吉氏より「中西氏の意見に賛成であるが、十名の委員数では賛

否の決が執れないので、九名にして貰いたい、又卒業年度を考慮して、新旧織り交ぜ、年令的にバランスを取つて欲しい」と発言、また寺西武氏よりも「老若男女を思考してバラエティある委員の選出を望む」とあり、決論として中務議長より「代議員詮衡委員を九名とし、其の選出を總會議長に一任とする」事の採択を語り、満場一致を以て異議なく拍手裡に承認された。

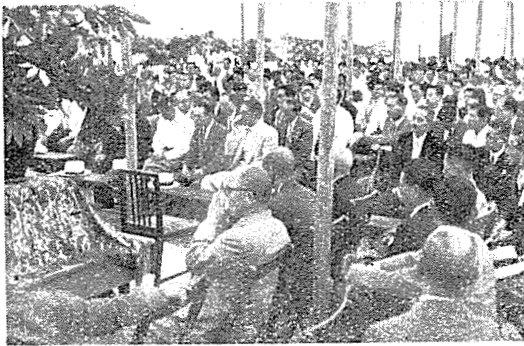


白川理事長挨拶

引続き、白川理事長より、学校行政に關する明細なる挨拶(別項記載)があつたが、此の時、門上敏夫氏より緊急動議あり、即ち「久井忠雄専務理事も起つてその行政意見を述べられたし」との要請

あり。議長より考慮する旨表明の上、日程通り、学長代理として木村健助法学部長から、教務に關する学長挨拶を述べられた。

次に議長指名に依り拍手に迎えられて久井専務理事登壇、一言一句力強く、学校行政に対する自己の信念、及び覚悟を披露し、今後進まんとする母校の方針を示唆して、校友に大きい感銘を与えた。尙、当日出席せられた遠来の、左記支



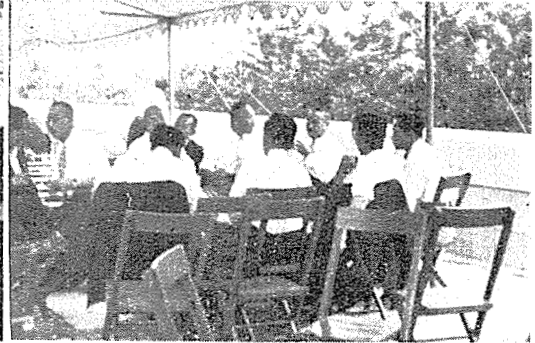
会場風景(手前役員席)

部長並びに支部長代理の自己紹介があり各地支部の状況を述べられ、校友の感激は一入であつた。(順序不同、敬称略)

- (福井) 内藤哲忠(福岡) 清原俊之助
 - (徳島) 三宅二郎(神戸) 角田好太郎
 - (備後) 河合衛一(姫路) 田中吉次郎
 - (豊中) 安富敬作(堺) 中村源次郎
 - (池田) 弓庭元一(芦屋) 田辺由治郎
 - (川辺) 深川 実(東住吉) 関矢貫一郎
 - (鳥取) 奥沢 澄(布施) 上田虎彌太
 - (広島) 村田 実(岸和田) 辻野新一
 - (滋賀) 宮尾一郎(名古屋) 中根孫一
 - (石川) 中西与七(和歌山) 小堀欣二
 - (富山) 安田倫藏(鹿児島) 桑原義隆
 - (京都) 荒賀勝平(泉 南) 松浪庄造
 - (東京) 福田繁芳(三重) 田中久雄
 - (尼崎) 松尾高一(明 石) 片山元藏
 - (大阪) 中務平吉(大 分) 西村正英
 - (西宮) 雑古貞雄
- 斯くして歓呼と朗笑と拍手と交錯した各地支部長の紹介時間も終り、閉会の辞が三島司会者より述べられ、總會の終了のが午後一時であつた。
- 風食の為、少憩
- 食堂は一階、二階の新教室が充てられ食堂に山と積まれた弁当、酒が飛び様に食券と引換えられてゆく、係員一同、大童になつての奮闘で猫の手も借りたい程忙しい。
- 食堂の中は、老いたるも若きも心は一つ、健在を祝し合う同期生組が、あちらにもこちらにも、各期別に円陣を造つて懐旧談に花を咲かす。ドツとどこかで歓声が湧く、丁度それが合図の様になつて



やあ久し振り！(交歓風景)



碗を紅に染めて



洪笑、爆笑(餘興)

次から次へ歓声の波紋が広がって行く。

七十年の歴史を語る、先輩後輩入り乱れての大饗宴である。絢爛たる関大史の頁の一節であるとも云ひ得よう。

大会場で呼物の演芸が始まった。若くして水々しい女子アナウンサーの声がマイクを透して開演を知らせる。

吉本興業株式会社から派遣出演の万才講談は左のベテラン組である。

- 一、万才 流行亭歌麿 流行亭八千代
- 二、講談 旭堂南陵
- 三、万才 人生 香朗 千守 歌子

此のプロ演芸家にあつて、校友で帝國工業社長、岩岸巖氏の隠し芸、飛入り漫談が出され、友人はだしの名演であつた

最後に、学友会関西大学ハワイアンバンドの演奏で数曲が奏でられた。

- ステイールギター 永田 勇
- サイドギター 杉山 昌弘
- 同 横山 賢治
- ウクレレ 土井 幸生
- ベース 秋山 仁

曲目

- 1、マリヒニメレ
- 2、ラ・クンバルシータ
- 3、マウイの娘
- 4、KISS OF FIRE
- 5、涙のワルツ

掉尾を飾るものとして、吾が母校の学歌が演奏され、千里ヶ丘も揺さんばかりに全員之に唱和した。

幾十年振りに学歌を聞く老校友もあり、眼に涙を漂えて肅然襟を正して聞く校友の姿が多数見受けられた。

之を以て午後四時、本総会は有意義に而も恙なく、散会したのであるが、幾春秋かを経て、遙か遠い雪の国から、又は果実稔る南の国から、訪れ来た校友の中にはいつ迄もいつ迄も名残りを惜んで学苑を徘徊し、暮色漸く迫るに及んで母校の隆盛を希ひつゝ去るのであつた。

関西大学校友会々長

岡野留次郎

本日関西大学校友会総会を開催するに当りまして会長として一言挨拶を申し上げます。

昭和二十二年校友総会を開きまして、以後終戦後第二回目の総会を開くことになりましたところ、本日の如き多数の御出席を得ましたことは母校に對しまして校友諸君がいかに深い関心を持ちその充実と発展を願つて居られるかということと同時に関西大学校友なることの誇りを示されたものと存じ慶賀に堪えませぬ。諸君の母校である関西大学の現状と将来については後刻説明があると存じますが、創立七十年に近い本学の校友諸君が社会の各方面において活躍せられることは本学発展の基盤であり、本学の充実と発展はまた校友諸君の誇りであろうと存じます、画期的な校友会総会に當りましても御参集願いましたので今後各地校友各位が常に母校を中心として緊密な連絡の下に校友諸君の親交を深め母校の発展に寄与せらるることを希望致します。

昭和二十八年六月二十一日

六月二十一日 午前十時より

代議員会 於 経・商学部教室

次 第

- 一、開会の辞 (司会、三島律夫氏)
- 一、会長挨拶 (代理、中務平吉氏)
- 一、議長選挙 (中務氏議長当選)
- 一、協議事項

総会に附議すべき議案に就いて

イ、事業並びに会計報告

ロ、会則改正（安井校友課長説明）
ハ、役員改選（中務議長推進）

一、閉会の辞（司会、三島律夫氏）

六月二十一日 午前十一時より
校友總會 於千里山学舎特設会場

次 第

一、開会の辞（司会、三島律夫氏）
一、会長挨拶（代理、原田鹿太郎氏）
一、事業並びに会計報告（中務平吉氏）

一、議長選挙（中務氏議長当選）
一、議 事

イ、会則改正（安井校友課長説明）

ロ、役員改選

一、理事長挨拶（白川朋吉氏）

一、学長挨拶（代理、木村健助氏）

一、専務理事挨拶（久井忠雄氏）

一、支部長紹介

一、閉会の辞（司会、三島律夫氏）

余 興

校友會地方支部長懇談會

六月二十一日 校友總會に出席の全国各地支部長の懇談會は、大学主催を以て總會終了の午後四時より、新築の瀟洒な千里山学舎大学ホールに参集し挙行された。

会場は豪華な室内裝飾が電灯に映り輝き、薰り高い花の数々が盛られて、和やかな雰囲気をかもしている。

開会前の一刻を愛んで、白壁の壁間に掲げられた、歴代の学長又は大学功勞者の写真等に、喰い入る様に見詰める人、円卓を囲んで、各地の支部情報を交歓している人、棟続きの研究室から、円形教室を參觀し乍ら、昔懐しい学舎のお粗末さと比較して、驚嘆の声を放つ人達、様々である。

安井校友課長より、全員に設けの席に着くことを願ひ、懇談會を開く。

先づ白川理事長の挨拶あり、各地支部長代表として、申務大阪支部長より、支部長懇談會開催の御礼の答辭があつた。

その言葉の中に、今回の如く全国的に殆んど支部代表者の欠席なく、母校に於て支部長懇談會が催され、学校及び校友会本部と支部、並びに支部相互間の連絡が容易にとり得られる様になつたことは、当然の事とは云え、実際には至難の事であり慶賀に堪えない。今後も学校当局の御尽力により、此の會が永續する様に期待すると結ばれた。

次に久井専務理事より、氣安く懇談會開催の主旨及び学園経営の経緯に関する

話が、ユーモア交りに話される。終つて支部長側より、出席せる大学役員の内、自己紹介をせられたしとの希望意見があり各々起つて之に應へる。

晚餐は、校友なじみの学校食堂主人、西村君御自慢のフランス料理であつて、之を賞味し乍ら各地の懇談が始まる。各々時刻の経つのも忘れて、過去と現在と未來の母校を論じ、意氣軒昂たるものがあつた。

斯くて宴熟け、大学の隆盛を祈念しつつ散會したのが午後七時であつた。懇談會出席者は左の通り（敬称略）

○大学側

理事長 白川 朋吉 専務理事 久井忠雄



白川理事長挨拶



懇談會會食

理事 宇佐美正祐 理事 木村 健助
同 西本 寛一 同 春原源太郎
同 森川 太郎 常務監事 矢野文雄
監事 西村治三郎 監事 西尾尊太郎

○校友總會準備委員

阿部 甚吉 長柄 金吾 三島 律夫

○支部代表者

（大阪）中務平吉（福岡）清原俊之助
（備後）河合衛一（芹屋）田辺由治郎
（福井）内藤哲広（堺）中村源次郎
（東京）福田繁芳（岡山）神崎傳次郎
（高知）岡内壽一（東住吉）岡矢貫一郎
（泉南）松浪庄造（神戸）角田好太郎
（京都）荒賀勝平（鹿児島）桑原義隆

(奈良) 高橋正次(和歌山) 小堀欣二
 (愛媛) 関本武之(名古屋) 中根孫一
 (姫路) 滝 利幸(岸和田) 辻野新一
 (徳島) 三宅二郎(鳥取) 奥沢 澄
 (尾崎) 松尾高一(三重) 小林 正美
 (石川) 中西与七(豊中) 安富 敬作
 (川辺) 深川 実(布施) 森 喬
 (明石) 片山元藏(池田) 弓庭 元一
 (滋賀) 宮尾一郎(富山) 安田 倫藏
 (広島) 村田 実(西宮) 雑古 貞雄
 (大分) 西村正英(大分) 徳丸 正雄
 (安井記)

校友總會隨想

夢につゞく人生

布施支部長代理 上田虎彌太

千里山の本学園には大きな構想があつた。それは当時のわれわれ学生には夢のような構想であつた。試みに学舎の屋上に登つて眺望し給へ。起伏する丘陵の波は波紋の美しさを無限大に展げる。こゝに学園の一大殿堂を築いて、西方からの学生は一人残らず喰止める、と。当時のけんこうたる理事者の意図を忘れることは出来ない。それからもう三十年の歲月が流れようとしている。六月二十一日校友會總會の日、私は学園の一角に立つて

これらの思い出をゆりさました。見給え、夢は実現されようとしている、夢は一直線に人生につゞいていて、偉大な歴史がすでにこゝに作られている、大学は土地にも、建物にも人にも昔の乗る程よい。旧友は互いに白髪の数を読みながら心の中に恩師をなつかしの角帽を抱きしめた一日であつた。

明石支部長 片山元藏

本学校友總會に臨席してその盛大なるに一驚を喫したがそれにも増して十数年振りに観る母校の威容とその内容の充実更に目下着々として拡張計画の実施状況を親しく見分してその規模の広大なるに思いを致し将来益々本学園盛隆発展の揚々たるものあるを深く信じ一校友として感激に堪えなかつた。

千里の牧場

石川支部長 中西与七

盛大な校友總會も無事終了心から祝福申し上げます、老生の驚嘆したことは規模設備の宏大豪華な企ての外に学校当局は時代教学の前途を譲らず立学の精神に則り所謂温故而知新可以為師矣とある育英上の大道を守られ厳しく行はれていることであつた、今回の校友大会の成功は偏に其の現はれである戦後不安に駆られ一時は日本精神も虚脱状態に瀕し父母の恩

師の恩、三宝の恩、君の恩等の四恩を口にする者すらなかつたが漸次国民精神を取戻された証拠であると見て大いに意を強くいたしました、母校を思うの孝道師道難て忠道復興となります然かも本校が誇りとする処は六十五年來の伝統を守つて本学の為に尽力された先考先師各位の遺業を痛づけかしめないことである、歴代

経営者は勿論現運営の要に当らるる白川老大理事長、久井専務理事等の各位は素より本学教育の根本中心である岡野学長及経理局長桂先生、校友課長安井君其他教職員一致団結の賜であるとして深く不断的努力に對し敬意を払ふべきものである、殊に育英の事業は設備の完璧には人的物的の二要素が互いに其の分を保つべきであるが、本学に於て最も急補を要すると信じ懸念された教授の外遊留学を決せられた事又校友會館建設の企圖等により精神的内観と外観的設備と双面平行合作の事に針路を定められたことは確かに卓見であり、且慶ぶべきであります

今後は所謂新進気鋭の頭のない心の善良な然も學問を生命とし育英を楽しむ人材を抜擢して外国に留学せしむる様國家の為人類幸福の為願わしい。百年の計を立てるは木を植うるにあり万年の計を樹つる人は人を教うるにあり、本学の使命亦此の点にありとすれば成るべく國家社會の要求を満す為人材否学者養成の為に心懸けらるる様に偏に希うと同時に前途

を祝福して老大理事長、慈父温和信義其の儘の岡野学長並に久井専務等の諸先生に過般の御礼を兼ね一言呈します
 徳学園

牧場には千里はあれど惜しいかな世に伯樂のなきぞかなしき

校友會及同役員會に
 出席しての感想

鹿兒島支部長 桑原義隆

一、母校の隆盛に今更乍ら驚いた
 二、母校愛と云うべきか……責任の重大なることを痛感した

三、今迄は校友會又は役員會は一部の人のものとあきらめていたが今後は地域的に(卒業生千名に一名の理事選出権がある様にしたら、例えば九州地区卒業生在住二千名だから二名の理事選出権がある様に)しては如何、尤も大阪がその大部分を占めることとなることは当然乍ら、
 四、支部長懇談会で密附の問題が出たが重責を感じるなら底分の密附は当然ではなからうか、
 五、資力ある実業界の人の役員就任がある程度望ましい、
 六、鹿兒島支部の結束を固めたい、

芦屋支部長 田辺由治郎

今日は私共同窓が永年種々御厄介にな

りました諸先生方に対し校友会総会が目出度、且盛大に終了致しました事は御同慶に堪えません。諸先生並びに之に従事下さいました校友会の方々には御多忙の中を殊に酷暑の折にも拘はらず種々御尽力下さいました事は誠に感謝の至りに堪えません、今後吾々は奮発勉勵して現在の波乱万丈の狂瀾と戦い関西大学の為めに尽瘁することが先生や校友会に御努め下さる方々への御高恩に報ゆる唯一の道であると感じます。此の懐心を述べまして御回答の弁と致します。

WATCHNSGROW

徳島支部長 三宅二郎

この言葉は大正十二年ごろだったと思うが、千里山に予科校舎が移った時サッカー部のゴールポストに書かれた誓語であった。その後三十有余年幾多の英才を送りかつ迎えたわけだが、はからずも全国校友大会に列席、千里山学舎の新装偉容に接して感銘深きものを覚えた、伸張発展は永遠にとどまるものでないけれども現在までを一応境として顧みるならばよくも発展したものと思う、この誓語はとつくと抹消してもよからう。

鳥取支部長 奥沢 澄

久振りに母校を訪れ二十数年前の昔と比較その発展振りに感銘すると共に郷土

に於ける支部校友にも現状を詳細に報告し母校の名誉と誇を益々拡大する考へであります。

宇和島支部長 関本誠之

先般校友会開催の折は参上致し盛大なる会合にして感慨無量にして年一回の校友会を希望します。益々母校の発展を祈ります。

ミカン畑にも思出が

高知支部長 岡内瀨一

私は大正十年三月の卒業式当時、学校当局から千里山で学校用地を購入したところそこにミカン畑があつてよく稔つておるから遊びに行くがよいといはれたので校友会福井支部長内藤哲彦君ら四、五名とミカン食べに行つたことがあつたがその頃から過日開かれた校友大会の日まで千里山に足を入れたことがなかつたところ学校用地の広大と立派な学園の建築が次々となされており学園の内外共に充実して来たことに感激いたしました。

支部員各位に喜びを願つ

姫路支部長 田中吉次郎

先日は久しぶりそれこそ二十五年振りに親しく講義室に入り机に向つて時をすごしました。窓より眺める景色はそれこ

そ一寸も変つていない。屋上に昇つて見渡す景色、とてもなつかしく憶ひ出が次ぎ次ぎと、胸裏より浮び上つて来て時を超越した錯覚すらおこしそうでした。校友大会の席上で自己紹介を兼ねたる支部長の挨拶はとてもよい思ひ付きいや計画でした。小宴の席上での自己紹介は、よくあることですが、こんな立派な名案には感心しました。各自二分間宛でも結構充分言はんとする所を言ひ得ました。議事進行は、やはり何処も同じ事、列席の諸兄には呆気ないものが有つた様に思ひます。余興も結構でしたが、この時間を割愛しても校友諸兄との意見の交換等が有つてもよいではないかと思ひます。平素逢はない方々との久々の会合です夕食等も仲々立派な御計画でした。未だ沢山書きたいと思ひますが、今日は御招待に預りました御礼の御言葉として御便り致します。来年もどうぞ。

三重県副支部長 小林正美

終戦後五回千里山に参りましたが、その後毎日、母校の姿が外見上は、段々と充実してゆくのをながめて嬉しく思つて居ります。小生永らく外地に在りし為、或は大阪在住の同窓の諸君以上に、大学の在り方について、強い関心を持つて居る様な気が致してなりません。学生の諸

君も昔と較べ粒がそろつてゆく代りに夢と覇気にかける所無きやを心配して居ります。財政面は一応基礎確立した今日、ねがわくば学校当局がより高く、より広い視野に於いて真の大学教育を實踐していただき度いものと念願しております。

実家の栄え

福井支部長 内藤哲彦

社会に巢立ちしてから幾度か履歴書を書かされた其のたび毎に最終学校を記載する、母校を出た有難さがわかる、生れた家のごえ変らうとも実家の栄えてゆくのを見るのは嬉しいものである。古くは興正寺、福島から天六、千里山と幾度か移り変つてはいるが恐らく全国一と云つていゝ広大な眺望絶佳の地に母校の慈々隆昌するのを見て唯感慨無量であつたそれが私学であるだけに先輩のこゝまで育てあげられた苦勞に心からの感謝を捧げたい、三島律夫君、森川太郎君其他の諸氏が母校に留まつていてくれるのが一入親しみが深かつた。長くいてもらいたいと思う。

和歌山支部長代理 小堀欣二

校友総会は空前の大盛會裡に終了した事は大学当局と、関係者一同の細心の御準備に依るものに外ならず深く感謝申し上げますと同時に母校の慈々充実発展は誠

に御同慶に堪えない次第です。更に総会終了後開催されました全国支部長会議に代理者として出席の光栄に浴し先輩各位より各地支部の動静を詳細に承り当地支部の活動未熟なるを反省し一大飛躍を計らん事を決意致しました。何卒この上共当局の御支援をお願い申し上げます。最後に学長先生の御平癒を神かけてお祈り申し上げます。

自画自省

三島 律夫

「ああ、またか」心の中で歎声が出る校友会の常議員会で、総会開催の件が何度か議題に出て、また何度か消えた、包みかくしのない実状はこれであり、その度にもれるため息であった、理由は総会開催に伴う難点が多すぎ、然もその結果としての成功度の評価があまりにも低かつたからであった。

話題に出る毎に先づ経費を打ち、通知方法？通信の範囲？場所？時期？と起つては消え、消えては又起つたこと幾回か、然し何とかして総会を開催しなければ、常議員の責が果たせないと言う結論に追い込まれて、遂に阿部、長柄、春原の三君と僕とが、具体的な原案を検討作成して提出するよう、謂はゞ小委員に挙げられたのだつた。慎重審議と言うよりは優柔不断と評された方が適切な僕達

（大抵強気な他の三君も、恐らくは僕の現実暴露と自省に抗議する資格はないと思う——暴言多謝）であつた。熟慮断行と逃げるには、常に時効の方が勝つていたのが実際だつた、それは兎に角、たとえ迂余曲折の長い迷路であつたにせよ、とうとう明るい広い真つ直ぐな道に出たのであつた。総会開催に要する経費の一部を、学校で負担してもよいからこの際総会を開催しよう……理事者と常議員会の気分がピッタリ合つて、茲に一瀉千里懸案が解決したのであつた、致し方のない難産と諦めていたのが、無痛分娩に一変したような気楽さで僕は実に嬉しかつた、改めて準備委員を託されて、他の三君と初めて本格的な活動に入つた。

僕は校友会が設けられた当初、時の岩崎学長に懇望されて初代校友会長兼囑の光栄？を担つた次第であつたが、只今も学内に居る関係上お蔭で専門の小委員にならされたと言う塩梅で、安井校友会長と大西同課員の来室が毎日のように繰返されて、相談に相談を重ね、独断で判定に苦しむ時は春原、長柄、阿部三君の意見を伺うことは元より、時には申務常議員会議長の判定を乞うて、一步一步総会のその日に近づいて行つた。

一五〇〇枚の発信から、出席者の返信が日々加増して行つたのもその頃であつたが、俄然総会は一大難関にぶち當つた、従来の総会記録から判じて、今回の

出席者を三〇〇名乃至五〇〇名と見込んで、経商学部（旧予科）の講堂を会場に充てゝいた所、一〇〇〇名突破となつては絶対に收容し切れないという事態に逢着したのがこれである、四名の準備委員が顔を揃へて、あたふたと車を馳せ最後の打開策に乗り出したのは、実に十九日の午後三時であつた、天幕屋さんとマイク屋さんを同道したことは勿論である、関西大学外苑（旧千里山遊園）に下車して、野外演劇場——相当荒れてはいるが——を会場とすることに一決変更したとは言うものの特別に雨の多い今年の梅雨のさ中、雨天の場合は万事が全滅に等しい、よし晴天の場合も必要な器具と物資の運搬連絡に不便と困難があるため、決つたような、決まらないような中途半端の気持をどうすることも出来ず、すべては神の解決に委ねて念のために千里山学舎へ赴いた。

先づ放送室から代議員会場予定の新館一階を視て、受付口、本部、会費領収所お弁当引換所と順次に見廻つて決めた後問題の三階講堂に上つて見たが、如何に工面しても收容力は六〇〇名が限度だ、むし暑い天候に疲れ、予想外の盛会に嬉しい悲鳴をあげて露台上に溜息をついた瞬間である、大学院、同ホール、法文学舎図書館、以文館、経商新館、体育館等々を、あたり一面の滴るような新緑の中に点々と見上げ見下ろされる、この屋上に

天幕を張つて、断然会場にすべきである」と咄嗟に決めてしまつた、準備委員が難題を解決して初めて喜色満面、この露台上に明後日の一大盛會を想像し乍ら心の祝杯を挙げたのは五時を二十分も過ぎた頃だつた。

愈々総会の当日を迎へた、あのように烈しかった夜来の雨が、くまなく晴れて文字通りの総会日和となつた、有難い、只伏し拜む氣持だつた、「精進がよかつた」と言つては自画自省の標題に背くであらうか、それは兎に角、全くの天の時をことはいだ筆者の脳裡に、次いで湧いて来たのは孟子の言葉であつた、

「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」とか、幸いした天候を喜びつゝ地の利を得た茲千里山学苑内の会場に、大きな意義が見出されて仕方がなかつた、降ろしている「自画自讃」の看板を掲げよと、のしる人があつても僕のこの真実の氣持は、も早やどうすることも出来ない。

然し何よりも嬉しかつた事は恩師各位理事者方を初め全国津々浦々からよくこそ馳せ参じられた多数の老若校友との間に、かもし出された温い情味と、香氣に満ちたあの人の和でなくて何であらう。「天下の英才を得て、之れを教育する」これも孟子が、君子の三樂として、その一つにあげた教へである、かつて全国から集つた天下の英才が、今や学界に

政界に、実業界に、法曹界に、そして官界に等々、社会のあらゆる階層にその指導の地歩を占むる、数多の母校愛に燃ゆる校友を迎え得て、誰か感激しないものがあるであろうか。

母校関西大学が、率直に言つて天の時を得なかつた不運もあり、地の利に恵まれなかつた時代もあり、別して人の和を得るに未だ完しとしなかつた過去があつた、然し今や理事者、教授、校友の足並みがピツタリ揃つて、一路崇高な育英事業に邁進している姿は、いやが上に高く強く尊いものである。関西に雄たる母校は、雖て全国に冠たり、世界に令名を謳はれるであろう日も、決して遠くはない事を信じて疑はないものである。

明後三十年の秋には、創立七十周年の一大祝典を挙げる母校であるが、言う迄もなく歴史を尊重するということは、過去の歴史を尊重すると共に、新しい歴史を創つて行く努力の尊さであることを信ずるが故に、今日の校友総会も亦、まさに母校関西大学の歴史に輝やかしい一頁を記録したものと確信して疑はない。

あゝ盛大であつた総会、有意義であつた総会、自画自省して謙虚な気持の中に尚かつ斯く叫んで憚らない校友総会を心から祝福し感謝して筆を擱く。

- りであつて、今後のために大いに参考されたいと念ずる。
- 一、時期は梅雨期をさけて十一月頃を最適とする
 - 一、良心的な出席通知のみを受けるよう工夫する
 - 一、会費は五百円を適額とする、但し風呂の酒量は小瓶で結構
 - 一、総会は毎年一回確実に開催するを可とする
 - 一、右のため学校の予算にも幾何かを計上して、年中行事として緩つくり準備の出来るようにする
 - 一、同時に代議員会、常議員会の活動を活潑にする
 - 一、余興は結構であつたが、軽音楽は蛇足の感があつた
 - 一、放送が大変よかつた、軽音楽や学歌はこの放送の方にまわしてやるがよい
 - 一、本部が手薄であつた
 - 一、事務員の動員が少なかつた、このために会計係、宴会係の常議員諸氏は気の毒な程忙しかつた
 - 一、諸室が散在して連絡に不便であつた(例へば弁当は会場の後方で渡し、湯茶の設備は講堂にすると、余興にも懇談にも便利であつた)
 - 一、総会の数日前に今一度常議員会を開催した方がよかつた
 - 一、各支部長の挨拶は総会に花を添えた

(一中校長)

校友總會役割表

本部	岡野留次郎	原田鹿太郎	演藝係	長柄	金吾	阿部	甚吉
中務	平吉	安井 章吾	冲	鶴忠	国分	吉弘	
岡山	三平	大西壽美子	行平	百太郎	青山	壽一	
上田	久子		医務係	大浜	永子		
神屋敷民藏	長沢 健一		電話係	榎田	ひさの		
田中 富子	荒木 淑子		名簿係	橋長	菊子		
榎本 信雄	加藤 昌秀		受附係	梶山	絹	山崎	節
角田好太郎	中辻 義三		案内係	市山	久榮		
西田 健			石田	フジエ	植田	ミサエ	
大石雄一郎	寒川 喜一		森	セツ	米田	ヨネ	
鈴木 武夫	渡辺 正人		氏原	ミノ	稻置	和子	
笠置 省三			広野	スエ			
織田佐代治	秋山 剛		上田	彌三郎	岡本	石三郎	
大月 伸	三島 律夫		白阪	松太郎	速水	勇千代	
志野覚治郎	唐崎 尊彌		山本	亥太郎	野口	末吉	
小山 平治	中谷 敬壽		北岡	九十九之助			

関西大学 法学論集

第三卷 第一号 昭和二十八年六月

カントの主権論とその批判……………岩崎 卯一

ドイツに於ける平和主義……………核田 重正

違法阻却原因の錯誤……………植田 重正

一 草野教授の批判に答へて……………川上 敬逸

一 序説原子爆撃の違法性に関する研究(其の一)……………池田 芳久

一 広島・長崎の場合について……………石尾 芳久

一 英国王冠の史的意義……………内田 修

一 「支配の諸類型」と法の歴史的発展(一)……………岩本 慧

一 特許制度と裁判所(一)……………

最初の取締役及監査役の任期……………

頒備 百五拾円 関西大学 法学会

學内報

図書館長に大小島教授

短大部長矢口孝次郎教授及び図書館長森川太郎教授は六月三十日付で夫々併任を解かれ後任に短大部長には法学部和田豊二教授が、図書館長には文学部大小島真二教授が七月一月付を以て発令された。

大島鎌吉氏渡歐

評議員大島鎌吉氏(毎日新聞東京本社運動部)は七月二十一日西ドイツ派遣第三回国際学生陸上派遣選手団の監督として空路フランクフルトへ出発の予定、同氏はケルン、ベルリン、ハノーヴァー及び学連創立十五周年記念招待会等の国際競技に参加九月十四日羽田に帰着する。尚同選手団には本学より園田裕四郎君(経三)が参加している。

人事異動

昭和廿八年六月四日附 井口一郎
昭和廿八年六月十一日附 田中栄一
田辺純夫

昭和廿八年度本学講師を依頼する(合通)
昭和廿八年六月廿五日

大島鎌吉
昭和廿八年度本学講師を依頼する
昭和廿八年七月二日附

須田省三
昭和廿八年度本学講師を依頼する
昭和廿八年六月十一日附

文学部講師 石川 湧
願に依り職を解く

人事往來

◇経済学部森川太郎、商学部安田信一兩教授は六月五日、六日兩日明治大学で開催の金融学会に出席

◇文学部榎本金次郎教授は六月六日、七日の兩日法政大学で開催された英文学会に出席

◇文学部吉永登、短期大学部河村信一、商学部河村宜介各教授、文学部藤本是助教授は六月六日三重大学で開催された近畿地区大学一般教育研究会第七回研究協議会に出席

◇文学部三木治教授は六月十二、十三、兩日慶応大学で開催された日本フランス文学会及六月十四日学習院大学で開催された日本仏語学会に夫々出席
◇文学部広岡英雄助教授は広島大学で六月十三、十四日開催された英文学会に出席

◇文学部田中熙教授は六月十三日近畿大で開催の大阪哲学懇談会に出席

◇矢野文雄常任監事は六月十九、二十日兩日東京各大学視察の為出張

◇春原源太郎理事は六月二十三日私立大学習盟理會へ出席

◇久井忠雄専務理事は六月二十五日から二十九日迄私学振興會其他事務折衝の為出張

◇文学部金子又兵衛、吉永登兩教授は七月二十一日より三十一日迄開催の大阪府認定講習會に國語科講師として出講の予定

校友

校友總會準備委員會

第二回會合を、六月十二日(金曜)午後三時より校友課附属室にて開催、總會当日の各係役割の決定、食事等の註文、会場準備其他に付、打合せを行う。
当日出席者は左記の通りであった。

原田副會長 中務常議員會議長
(委員)阿部甚吉 長柄金吾 春原源太郎 三島律夫 大西校友課員

第三回會合を、六月十九日(金曜)、午後二時より、校友課事務室にて行ひ、会場視察の結果、経・商大講堂も外苑野外劇場も手狭に付、経・商学部の屋上

露合に千人收容の大テント張りにて会場を特設することに決定。
当日参加者は左の通り。

(準備委員)
阿部甚吉 長柄金吾 春原源太郎 三島律夫

(校友課員)
安井章吾 秋山剛 大西寿美子

第四回會合を、六月二十日(土曜)千里山にて行ふ。

当日参加者は左記の通り。
長柄金吾委員 (校友課員)
安井章吾 秋山剛 大西寿美子 荒木淑子

会場準備の為、安井秋山兩課員は千里山学舎にて宿直をなす。
第五回會合を、六月廿九日(月曜)午後四時より開催、校友總會の決算報告及び總會に關する反省懇談をなした。
当日出席者は左の通りであった。

中務議長 矢野常務監事 安井課長 (委員)阿部甚吉 長柄金吾 三島律夫

代議員詮衡委員會

校友會代議員詮衡委員會は七月九日(木曜)午後三時半より、校友課附属室に於てその第一回會合を行ひ、代議員詮衡を開始した。
当日出席者は左記の通り

原田副会長 中務議長 安井校友課長
森川理事

(委員)
阿部甚吉 岩本公夫 大月 伸
櫻本信雄 門上敏夫 栗川喜一
寺西 武 長柄金吾 三島律夫

第二回代議員詮衡委員会を校友課附属室に於て開催、詮衡の結果別表の通り代議員は確定した。

当日出席者は左の通りである。
久井専務理事 西本理事
矢野常務理事 西村監事
中務議長

(委員)
岩本公夫 大月伸 門上敏夫 三島律夫
(大学側) 安井校友課長

尚、新代議員会は来る八月廿九日(土曜)午後二時より、天六学舎四階第三十七教室に於て開催されることとなった。

荒賀勝平、阿部甚吉、荒川虎一郎、赤松政雄、天井作次、池田重吉、石原孫市、岩崎卯一、市川信、磯野充賀、石丸豊、池谷龜太郎、岩岸巖、伊東太平、井上龍男、今井憲夫、池田信之助、泉正雄、池田佐太郎、今井康兼、岩本公夫、稲野治兵衛、石村巖、伊藤秀一、井上勇、岩戸貞雄、井元弘平、石川栄一、井上精一、井口清光、池見哲、一瀬泰男、今西貞夫、鶴岡金次郎、上田武雄、梅原貞次郎、上野俊彦、浦本哲彦、植野郁太、上西榮万、上

野勝也、瓜生信夫、江村至身、江里口春志、根原武雄、岡本勳治、岡本重治、大月伸、岡内壽一、小川成雄、太田祝次良、織田佐代治、大石雄一郎、尾崎信夫、奥沢澄、大島武夫、逢坂勝見、岡田実之、大井亨、奥村孝、大小島瀧、大蔵定司、大久保茂平、神崎傳次郎、神宅賀壽恵、桂忠雄、河村宜介、片山元藏、笠置省三、川上敬逸、河合銜一、櫻本信雄、加藤昌秀、加古撒次郎、鎌田嘉之、寒川喜一、神屋敷民藏、河内兼三、川井幸太郎、門上敏夫、柿木弘、川西元治、片野総一郎、片岡勝、金本朝一、木下定次、城戸盛雄、木下清一郎、木原繁実、岸本忠雄、清原俊之助、北本彌市郎、北原元茂、木藤安之、北里末二、木山晴夫、鬼頭光哉、北川欽一、北之坊孝治、木村吾郎、木津定子、桑原義隆、国田栄一、栗林章、鞍内国二、小山平治、小堀欣二、郡榮作、後藤正身、国分吉広、小林巖、後藤文彦、近藤公男、小久保実、沢辺金三郎、雑古貞雄、佐々木重之助、佐伯三郎、坂本龍夫、櫻田誉、佐伯五郎、沢村宗平、下条小野右衛門、島村保穂、神保敏男、霜村盛郷、白井正実、白井種雄、澁谷喜章、新堀敏麻治、新谷幹夫、篠原昭三、新谷正巳、角田好太郎、鈴木武夫、須佐美八藏、関豊馬、関矢貫一郎、高橋節治、田中藤作、田中吉次郎、田中久雄、竹内猛、竹沢喜代治、谷口宗一、滝利幸、淡数男

田辺由治郎、高垣善一、谷肇、棚野誠幸、谷山守節、多賀谷宏、高橋忠道、田中松太郎、竹中多賀三、田中幸治、高橋直人、高掠正次、武田藏之助、千巖古郎、塚本万次郎、土橋四三、壺田倫夫、津田弘、土谷正喜代、辻村昌次、鶴沢寅彦、辻野新一、寺西武、寺川和正、富永竹夫、戸根泰雄、富田恭三郎、内藤正剛、中村敏雄、中西与七、中井彌六、中村源次郎、内藤哲忠、長徳友一、浪江源治、中石清一、中尾善宜、名田京一、中村敬次郎、中村徳藏、長沢健一、中村正雄、長柄金吾、中本勇、餘江城夫、中務健治、永田清春、中農晶三、中谷清、中谷敬壽、中務平吉、西本政五郎、西本寛一、新田巖、西村治三郎、西尾専太郎、西山四郎、西村正英、西脇吉幸、野田文一郎、野田文雄、野口一郎、納庄清之進、原田鹿太郎、羽間平三郎、橋爪亮一、長谷川清一、春原源太郎、淡野庄作、原英作、畑下辰典、林勳、平尾廉平、樋口哲四郎、広瀬精一、広実郁雄、久井忠雄、平井三郎、弘末正彦、平尾利志明、東浦栄一、東山利夫、平井幸一、古屋東、深川実、福田繁芳、藤井健造、藤田令充、藤川健治、古市実、松本芳太郎、前田常好、前川信之助、真鍋竹治郎、松尾高一、松浪庄造、政井武、松原藤由、松下忠由、松井良雄、前阪京成、前田算治、三好万次、三島律夫、三宅二郎、南清、三宅茂、宮田輝穂、宮武

喜三郎、村尾静明、宗本利一、村上正朝、村上精三、向井裕亮、村上民二、村瀬昭夫、森喬、森川太郎、森下善雄、森田森、森本与一、八木万太郎、山根滝藏、安井章吾、山口辰雄、安富敬作、山田繁雄、矢野文雄、山中一夫、山本宏、山本守昭、矢口孝次郎、山田松太郎、弓庭元一、行平百太郎、吉村種藏、横田長次郎、吉田奎文、四辻詮、吉川敬一、吉橋輝美、吉田三七雄、吉田虎雄、横山正、脇野徳三郎、渡辺忠男、渡辺治明

十九学会総会

昭和十九年九月卒業の専門部(二部)国漢専攻科出身者をもつて組織される十九学会は恒例により六月十三日午後五時より学芸大学心接室にて開催した。参会者十名、非常な盛会で新顔も見え期せずして懐旧談に花が咲き実には愉快な数刻を過した。次回は今秋神戸地区にて開催を約し午後八時半名残りを惜しみつゝ会を閉じた、当日の出席者は左の通り

今井徹、池永信一、北川甚太郎、沢田義一、田中順之祐、土井鉄治郎、山村睦夫、吉川清次郎、吉本庄作、登地佐太雄(順不同、敬称略)

和歌山縣支部総会

七月四日午後二時より和歌山市汀町和

歌山商工会議所に於いて和歌山県支部總會を開催、当日は梅雨降りしきる中を安井校友課長は御出席下され母校の近況を詳細に亘つて報告された後、役員改選、県支部分会の設置、和歌山県支部名簿発行などの件について決議された。

役員改選の結果

- 支部長 高垣善一 (留任)
- 副支部長 正田義春
- 幹事長 小堀欣二
- 副幹事長 村田喜一
- 評 宮本嘉蔵
- 新谷幹夫
- 幹 事 有木芳松、橋寛、木下栄、林将典、森田精幸、

光、朝比奈博文

県支部分会設置

和歌山分会 (和歌山市、海南市、海草郡)

- 那賀 (那賀郡)
- 伊都 (伊都郡)
- 有田 (有田郡)
- 日高 (日高郡)
- 田辺 (田辺市及西牟婁郡)
- 新宮 (新宮市東牟婁郡)

總會終了の後午後五後より和歌山市築地ちんや食堂に於いて懇談会が催され、總會に止むなく出席されなかつた人も懇談会には多数の参加者があり盛況を極め

た。又、母校から遙々矢野常務監事も懇談列席されて一同の意気たるや益々軒昂尽きぬ懇談に一刻千金の時を満喫した。尙当日の出席者は左の通り (順不同敬称略)

「總會」大学側 安井校友課長

- 支部 小堀欣二、宮本嘉蔵、江川信郎、小阪嘉穂、村田喜一、橋寛、朝比奈博文、秋月克之、太田貞克、木下栄、繁、狩野吉清、高垣善一、柳瀬茂、上岡正直、吉田健吉、木村保、清水郡造、真野忠一、山本邦輔、信定勉、林将典、太田幸一、桐山一雄、中村岳、太田歌三、登地佐太雄 (以上二六名總會出席者)

「懇談会」大学側 矢野常務監事、安井校友課長

- 支部 中村岳、木原謙三、登地佐太雄、吉田健吉、木下栄繁、西本義孝、森田精幸、江川信郎、吉田真一、和田竹信、南出一次、田端、小坂嘉穂、土橋啓三、前田光、前田年、津田等平、織田、木村一哉、太田幸一、太田義三、竹田国一、塩崎吉彌、杉原正、橋寛、松岡一郎、桐山一雄、林正典、小堀欣二、清水郡造、竹内、村田喜一、村田時久、宮本嘉蔵、高垣善一、平島広、北川静雄、萩原重太郎、朝比奈博文、新谷幹夫、橋爪靖直、池田泰造、鈴木、正田義易、真

野忠一、江川博 (以上四六名懇談会出席者)

姫路支部総会

姫路支部総会は七月十二日商工会議所

議事室にて開催、母校より安井課長の懇々御来臨を得てまことに賑やかな有意義な会合となり喜ばしき限り、本年は少々趣きを變へ、在学生とも連絡を取つて總會に招待、卒業と同時に校友会に入会して貰う様に懇談、学生諸君も先輩を身近にして就職を依頼したり学生々活の有り方に就き批評し合つたり、融和した気分の中に連合の会に立派な意義を持たし得たのは大きな収穫であつた。

尙安井課長より大学の近況、将来の拡充計画等詳細なる話を皆嬉しく拝聴、役員任期満了の年に當つて会長より諒解委員五名を指名し、委員会より留任の上会務と処理を希望結局会長、副会長は留任、幹事は新会長指名依頼にて満場一致で之を承認した。

午後二時から五時半まで終始和やかな内に議事を進め親しみの内に懇談をし再び会を約して散会した。新役員顔ぶれは次の通り。

- 会 長 田中吉次郎
- 副 会 長 滝 利 幸
- 吉松須賀根

會計幹事 西村新次

出席者 校友會側 二十四名

- 田中吉次郎、滝利幸、吉松須賀根、西村新次、小松陽之助、田中貞男、田際幸雄、土師芳松、松本一二三、水田佑、大岡三郎、瓦谷末雄、岡田伊左雄、白井不可止、道下健造、横田正、溝端章男、田中通直、西尾郁三、河原太、赤西清光、梅谷久義、塩見嘉朗、音羽倫宏

學生側 二十八名

計 五十二名

在籍者數、校友會 七十名

本年新入会 三十名

計 壹百名

學生側 通學生 約四十名

下宿其の他 四十名

計 八十名

事務所所在地 姫路市西新町一三七

支部長 田中吉次郎

支 部 長 田中吉次郎

校友会高槻支部発会す

昨年来懸案の高槻支部結成会は、友る七月十二日午前十時から同市の北丘、靈松寺で挙行せられた。會員總數百六十名 (六月三十日現在判明分) 中、参加者二十八名であつた。江里口正行君、司会者

として開会の挨拶をのべ、次いで出席者全員の同意を得、吉川敬一君を議長に推す、議長は本支部発会に至るまでの経過と其の意義を概説して議事に入つた、会則案を逐条審議、決定し、脇野徳三郎君初代支部長に推挙せられ、以下左記の通り、第一期役員を選出を了した。次に議長の請ひによつて、大学当局より来賓として臨席中の久井専務理事及び西村監事より、本支部発会の祝辞に併せて、母校の現在より将来の抱負並びに決意等熱意溢るゝ挨拶あり、同席者一同等しく洋々たる母校の前途に同慶の感を深くした。茲に第四十番目として高槻支部は、大いに為す有る将来を約束されて結成を完了したのである、続いて、来賓を囲んで、三十名の先後輩入り交つて清宴に入つた、梅雨晴れに映へる緑りの小丘に、高談笑聲、何時果つるともなく続き、流石同窓の誼友ならではの数刻であつた。名残り尽きぬまゝ次回の会同を約し午後三時過ぎ閉宴した。迷いで別室で第一回役員会を開き、当初の諸事の打合せをして散開した。

因に、当日の参会者並びに新任役員は左の通り。

- 来賓 久井専務理事、西村監事
出席会員 金原巧、山尾義春、江里口正行、佐野広一、田伏次雄、寺本利雄、今西勲、藤本栄治郎、鈴木末広

- 東襲、吉川敬一、有福建、水谷正一、加来秀介、岩本治一、竹内宇苗、吉川明一、辰己明夫、高木茂、若野伝一、脇野徳三郎、仁部利夫、片岡勝星田九一、入江寛代造
(敬称略、順不同)

役員

- 支部長 脇野徳三郎
副支部長 星田 九一
理 事 吉川 敬一
江里口正行、加来 秀介
寺本 利雄、後藤 幸重
藤本栄治郎、西島 文平
太田 正義
監 事 杉田 英一、川畑 角三
——吉川敬一氏報——

阿倍野支部結成大会 報告の件

去七月十一日午後五時より小雨をほふる阿倍野橋キリンピアホール階上に於て阿倍野支部結成大会を開催当日は久井専務理事安井校友課長関矢東住吉支部長の諸先生の来賓を賜り発起人代表鈴木武夫氏の挨拶により華々しく挙行された。

早速会則案審議に移り江村至身氏議長に選出され会則の骨子を決定茲にその体系は形成された役員の決定に關しては当日は支部長副支部長二名のみ限定し議長より推薦委員五名を選出しこれにより

次の如く決定した支部長江村至身副支部長鈴木武夫小島龍太郎この時宴に入り客賓側より先づ久井専務理事次に安井校友課長より大学近況報告及拡充評議等の説明あり続いて関矢東住吉支部長より祝辭を受け宴益々酣にして各所に於て名刺交換が行はれ意氣誠に剛然たる様であつたこの和やかな券囲氣の裡に秋山剛氏指揮の下に学歌齊唱の後安井課長の発声にて阿部野支部の万才初代支部長に就任の江村氏の発声にて母校の万才を三唱して名残を惜しみつゝ午後九時散会した。

尚七月二十日午後六時より真法院町府議員会館に於て支部長副支部長及推薦委員評七名参集し結成大会出席発起人全員幹事に決定幹事長会評監事二名次の如く決定した。

幹事長 上西榮方 會計監事 上西榮方(兼務) 黒沢五郎
幹事 谷口

追記 第一回総会は八月中旬開催の予定有志諸賢の絶大なる声援と参加を乞ふ
当日出席者

- 大学側 久井専務理事、安井校友課長
支部側 江村至身、鈴木武夫、竹内、小島龍太郎、黒沢五郎、上西榮方、吉川、小林金次郎、萩原公、谷口秋雄、秋山剛、山下雄三、篠崎鶴次郎、高田明寺本寛、小野(順序不同)

大阪郵政支部春季総会

郵政支部結成以来総会を開くこと既に數回、その会を重ねる毎に出席者が増加し益々その發展途上にある当支部が昨年秋有馬温泉において秋季総会を開催以來六ヶ月振りに六月二十日南地莊別館[註]で春季総会を催した。当日雨の降る中を学校当局からは久井専務理事及び評議員阿部甚吉氏が出席せられ会員は遠く加古川、京都方面からも参加、盛会を極めた。

先づ森田幹事長より開会の辭に始まり井上支部長より当日の盛会を喜ぶ挨拶があり、引続き久井専務理事から母校の近況報告及び将来千里山を中心とした一大学園の建設計画の説明があり出席者一同に深い感銘を与えた後、宴会に移り各自の隠し芸等の披露に拍手喝采午後六時過ぎ学歌合唱支部万才を三唱盛會裡に終了した。当日の出席者氏名次の通り、

- 大学側 久井忠雄専務理事・評議員阿部甚吉氏
部員 石丸豊、井上龍男、江指幸四郎、泉賢理、植塚正、宗定信男、辻懋、渡辺和夫、国井秀明、山本健吉、小倉早太郎、長谷川博克、佐伯博道、坂井隆純、井上龍二郎、北野繁太郎、前田覚、坂田雄延、山岡喜良、南口勲、宮川治、林田昇、福井英治、友井伊三郎、加藤正治、森田安一、小

林薫、枚田基生、成田正一、新居康
 佑、山本武三郎、杉田貢、大池三郎
 板井忠行、長岡敏行、和田啓一、高
 村清春、合田実夫、今井繁、細川信
 一、汐田貞一、藤田政治、近藤精吉
 日下部茂一郎、福原武一、北村実、
 井上富太郎、平工英男（敬称略、順
 不同）

関西大学校友会

岡山縣支部

六月十四日母校関西大学専務理事久井
 忠雄氏の御臨席を得て岡山市上之町「千
 成」に於て校友会支部總會を開催す参會
 する者三十数名

定刻正午神崎支部長のあいさつの後、
 久井専務理事より母校の近況を詳細にお
 伺いし校友一同意を強くした。

次いで校友会支部規約改正に移り別紙
 規約を満場一致可決し直ちに新役員の選
 挙を行い左の通り当選を見た。

- 支部長 神崎伝次郎(再任) 岡山商
 工会議所理事長
 副支部長 井上 守三(再任) 弁護士
 顧問 吉岡 栄八(再任) 弁護士
 同 右 三輪 一郎(新任) 三和相
 互銀行取締役
 同 右 在里 三芳(新任) 久米郡
 多削町長
 同 右 岡崎 速夫(新任) 岡山水

道局長

- 幹事長 平尾 利雄
 幹事 池宗福三、塩田方太郎、有里三
 芳、小坂福雄、川上新太郎、大
 森元二、山足益男、樋口辰巳、
 横山睦。山崎通夫、田淵久
 以上十一名

引続き本年度事業計画を協議したが時
 間の都合で具体的な事業は幹事会で成案
 を得て次回總會に上程する事となり協議
 を終り一同打寛いで懐旧談に花を咲かせ
 て有意義で楽しい校友会であった。

又新入会者が可成多数あつたので旧会
 員と併せて次回總會には相当の参加者が
 あるものと支部の発展の為期待出来るも
 のがあつた。

- 神崎伝次郎、井上守三、岸本龍太郎、
 池宗福三、犬銅強、三輪一郎、松田武
 彦、有里三芳、西垣正吾、守屋充、戒
 肇、岡山保男、塩田方太郎、平尾利雄
 田淵久、上山兼太郎、藤原盛久、山崎
 通夫、西長市郎、小坂福雄、河田一、
 川上新太郎、横山睦、森下英一、山足
 益男、岡本隆昌、鴻上芳雄、久須美泰
 介、都志昌之介、小野田一正、岡崎速
 夫、樋口辰巳 以上

訂正

六月号十七頁及十八頁文中次の通り訂
 正致します。
 十七頁

第一段最終行ヲた。々をリたり。々に 十八頁
 第二段九行目ヲおも事山のこととなる 一段廿四行目ヲ(二線文守)々をリ(二
 々をリおもき事の山のこ 絲文守)々に
 とくなる々に 同廿五行目ヲ享寂々をリ示寂々に
 第三段二行目ヲからゆる々をリからゆ 二段六行目ヲあたらる為々をリあた
 るゆる々に られる為々
 第四段廿三行目ヲ名のたつかはり々を と夫々訂正致します。
 々名のたつはかり々に

關西大學文學論集

第三卷 昭和廿八年六月
 第一号

古代支那に於ける供儀の意義とその型式について……壺井 義正
 我が国の家庭における道德教育について……田中 熙
 教育に於ける知性化と言語の役割について……鈴木 祥蔵
 デューイの“How We Think”を中心として……寛田 知義
 經驗的教材の統合について……
 頌價 壹百元

關西大學文學會

万葉

第 八 号
 昭和二十八年七月

警喻歌の性格……………扇 畑 忠 雄
 万葉貴族の生活圏……………蘭 田 香 融
 人聲における推定表現の丹精……………森 重 敏
 「わらば」と「わくらば」……………井 手 至
 「何時辺乃方」考……………野 中 春 水
 「搦手折」考……………竹 岡 正 夫
 万葉集講話 八……………澤 瀧 久 孝
 黄葉片々……………吉 永 登
 袖中抄と類聚古集……………佐 竹 昭 広
 「三袖」存疑……………木 下 正 俊
 「越野過去」訓義私按……………
 万葉關係雜誌論文目録・彙報・編輯後記……………
 頌價 八〇円

萬葉學會

アマチュアリズムの擁護者

大 島 鎌 吉

スポーツは世界的に隆盛に赴いている。これは第二次世界戦後に起つた社会現象として文化史的な意味をもつものである。

しかしながら、隆盛の側面には種々の弊害を生んでいる。弊害はこれを放置するならばスポーツそのものを破滅に導びくほどの危険をはらみつい込まれわれの眼前で伸びひろがりつゝある。

われわれは、ギリシヤの過去を思う。そして現代の現実を眺める。

二千有餘年の時間的な間かくを置いてスポーツ史の流れに注意を向けるとき、ギリシヤ・スポーツの衰滅史を繰る幾つかの原因が、そのまま現代スポーツの中にあることを知るのである。

ギリシヤ末期がローマに引きつがれた理想を失つたあの混とんを、今日再びくり返えすまいとする努力が幾つか行われていることは注目に価する。

それは「アマチュアリズムの擁護」である。

世界スポーツがオリンピックを中軸として動いているとき、この真只中にあつて鋭い叫びを放つているのは、オリンピック委員会委員長アペリー・ブランデー氏(米)である。

彼は資本主義の祖國米國の世論に抗してきえも、オリンピックとその精神を守り抜こうとしている。次ぎに掲げる二つの論旨は、同氏が私の質問に答えて送つてきたものである。

オリンピック競技と

ブロック・タイムの疑問

古代のギリシヤに、その黄金時代が突つた中に、肉体と精神の二つの修練を求めつゝ真の文化が花咲いた。

オリンピック競技は心の中に常にこの原理を描いて高い理想主義と半宗教的基礎の上に組織された。選手達は嚴格にアマチュアで——唯一の賞品は野生のオリヅの簡単な花輪だつた——彼等がアマチュアである限り数世紀に渡つてその重要さと意義を成長させていつた。ギリシヤ文化の最盛のに得られた最高の名譽の一つはオリンピックの勝利だつた。

しかし、次第に弊害と過度が発展し——勝利がゲームよりも重要視されるに至つた。

町々は他の町に対してその優越を誇示する努力をし初めた、すなわち勝利者を製造するため特別の合宿所を作り、他の地方から選手に募集し選手に奨励金を与えた。特別の賞の金や報酬、凡ゆる種類の誘引が与えられ、勝利者には生活扶助費さえも与えられた。

元來喜び、楽しみ、気晴らし、十八番であつたものがビジネスとなつた。その時代の偉大な哲学者や思想家の精力的な抗議に拘らず、試合以外何んにもしない男性の一階級が発生した。富める人やローマ帝國のネ

ロのような強力な政治力をもつ人が規則を変え、勝つために種目の編成を変えようとする暗謀を企てた。競技は墮落し、その正純さと高い理想主義を失い、最後に崩壊した。

完全への追及

クーベルタン男が一八九四年に競技を復活した時、彼は祝祭をより完全なものにし、その栄光ある過去に相応しく、内に燃える高い理想に順応させるため提議した。

『オリンピック競技における重要な点は、勝つことではなくて参加することである。あたかも生活において最も基本的なことが征服することになくて良く戦ふことにあると同様に』。

嚴格なアマチュア競技

古代のオリンピックを破壊した弊害と過度を防ぐため、一種の規則と規程が採用された。

基本的原則の一つは競技は嚴格にアマチュアであることである。オリンピック競技に参加する競技者は次の条項を充たさねばならない。

1、その人が参加するスポーツ或いは他の如何なるスポーツにおいても、職業選手であり、又は職業選手になることを知つて参加してはいけない。

2、失つた俸給に対する補償又は代償を受けてはいけない。

3、体育やスポーツの教授して報酬を受ける教師であつてはいけない。

競技会の管理を委託されているIOCの委員は、オリンピック運動に対するその最初の忠誠或いは彼等の地位の独立性を危うくする如何なる支配からも自らの自由を守らねばならぬ。

競技者のために！ 国のために非ず！

国の競争を一定限度に止めるために、得点で等級をつけないことが考慮された。——公式には計算が行われない。

競技は競技者のために行われ、国のために行われぬ。

政治的目的によつてスポーツが国家主義化するといふ問題に關しIOCは次ぎのように声明した。

『IOCはオリンピック運動が各国に熱情と競争心を喚起したことをもつて満足している。これは国民の体位の向上の目的のために、体育の總括的プログラムを実施した政府に対する賞讃以外の何ものでもない。』

しかしながらオリンピック理念に対する危険の介在することを認める、すなはちアマチュアリズムの原則に則る合理的なスポーツの發展に伴つて、オリンピック精神の基礎原理に一致するスポーツ目的の達成よりはむしろ国家的勢力伸張の見解に左右される一つの傾向である。』

純粹な競技に對する規則

競技の純粹さと清淨さを維持し、競技がもつ高い理想と一致させるために、IOCは他の規則を發表した。

『競技者が練習の目的で二週間以上合宿に入り、そのために競技者学生、雇傭者、使用人を問わずの本職が妨害されることは、オリンピック精神と一致しない。』

『競技的成果のほう美として商業的価値ある贈物やその他の経済的利益を得た競技者はオリンピック競技に参加できない。』

『一競技の職業選手は一般的に他の全スポーツの職業選手と見做される。IOCの見解ではこの規則が絶対的なものであることを望んでいる。』

『或る国では優秀選手が新聞、ラジオ或いは演劇、映画界にスポーツにおける名声の故に職が与えられている、このような名声の資本化はアマチュア理念或はオリンピック競技の精神と一致しない。』

『如何なる種類の薬品や科学的刺激剤の使用は咎められ過ぎるといふことはない。そしてどんな方法でも興奮剤や科学的刺激剤を使用する者はアマチュア・スポーツやオリンピック競技から閉め出さるべきである。』

許るされる經費

『アマチュア競技者は競技会出場に關連する旅費、宿舎費について実費を受け取れる。これは一日一磅にバス、飛行機、船、一等、汽車、二等の切符を加えたものを超過してはいけない。總額が前記の支出を超過することは禁止される。』

『アマチュア競技者は洗濯やバスや電車賃などのような實際的支出や普通の附隨的支出について一日三シリングを越えない程度の補給をうけることができる。』

『オリンピック競技参加は非常な名譽である。これは多くの雇傭者の認めるところで、使用人の中にオリンピック競技者のあることを誇るべきである。しかしそれ故に特別の経済的措施を講ずる必要がない。支払われる賃金が競技者の占める地位に伴ふ標準を超えてなされる場合、それはアマチュア規則の忌避である。』

最少限度十カ国で行われ、少くとも六カ国が競技できる種目はオリンピック・プログラムに含まれる。又過度の熱狂を防ぎ、競技を日常生活の正気で健康な關係を維持するためにオリンピック競技は四年に一回だけ、一回十六日を限つて行われる。

家族扶養の要求

良き保護の下に競技の權威と重要さを増大した五十年の進歩の後、今や規則を変えよとの要求が出された。諸条件は変わった。アマチュア規程は改正されるべきだと主張されている。

競技者には兵士のようにその国の競技の榮譽を守る。ことが要望されている。それ故に競技者の經費が支払われるべきでない（それは規則で許されている）ばかりか、その扶養者達も不在中保証されるべきでない。

今やアマチュアリズムに關し明瞭な論理的な考慮が払られる時である。吾人は自らをあざむかない。白は白であり、黒は黒である。そしてアマチュアはアマチュアである。アマチュアとはスポーツとの關係が全く喜びにあり、それによつて肉体的、精神的、社会的な好結果が齎らされ、その人にとつて慰みごと以上の何ものでもないものである。

誰もアマチュア規程を変更できない。

一競技者がスポーツを愛するが故に戦ふ限りそれはアマチュアである。経済的な商業的な政治的な考慮が介入する場合はその人にとり最早アマチュアではない。

試合に参加するために失つた時間が物質で保証されるといふ理論は、真のアマチュア・スポーツを形作るプレーヤ、喜びや、氣晴らしの精神にとつて全く縁遠いものである。

試合の期間中（失われた時間）雇傭者から支払を受ける競技者は最早アマチュアではない。

アマチュア理念の侵犯

青年がどんな理由に基こうと、その国、その町、そのクラブの榮譽を守るために年に六回以上も自分の本職を離れねばならぬといふ考え方は、アマチュア・ス

スポーツの理想と一致しないばかりか、社会的にも正当化されない。

一理を四分で走る競技者は、彼が小さな町でその記録を作ろうと世界的大都市で作ろうと偉大な走者である。アマチュアは海外であろうと生地であろうと同様に試合から喜びと満足を得られる。

スポーツは十八番で気晴らしである、それはプレーである。辞書によればプレーは娯樂活動である——仕事と反対に——、自由な、自発的な喜びに充ちたレクリエーション活動である。

スポーツが上記のもの以上のものを得る時間はビジネスであり労働でありスポーツではない。

スポーツは本業に対して全く附随的なもので本業を妨害することは許されない。

それは慰み事であつて本務ではない。
二千年前にこの基本的原理がなえがしろにされた時スポーツは墮落した。われ／＼の現代スポーツのプログラムは、アマチュアリズムの規程が強化されねば、その同じ運命に陥るだろう。

大多数の競技会は少年少女、男女青年によつて行われる。以上の明白な理由によつて競技会にスポーツの重要性について誇大な考え方が与えらるべきではない。教育の成果や商売や職業の営みを妨害することは許るされない。スポーツをあるべき地位に守ることは、アマチュア・スポーツ統轄団体の義務の一つである。

悪弊への道

失つた賃金に対する補償（ブローカーン・タイムに対する支払）はアマチュアリズムと相容れないことは誰もが知っている。しかしながら今日、民主世界において

て人は経済的理由で祖国を代表することが阻止されるべきでないといふ理窟で、『或る場合』には例外を設け支払いが許るべきだと提議されている。

『誰がこの』ある場合』を決定するか？』そして『どれだけ支払われるのか？』こゝに議論がある。

論理的に試合のために十萬弗の収入を失つた人は、十弗の賃金を失つた人と同様に、それだけの補償に對し資格がある。

若しチームの一人が支払われれば、他の全部も又同様に支払ひに對し資格をもつ。

若し諸君が競技者に対しその妻を養うに足るものを与えれば、何故母や叔母や祖母のために与えられないのか？。

若し諸君が試合する競技者のために支払ふならば、何故練習に對し支払わないのか？。若し諸君がオリンピック競技参加に對し支払うならば、国際競技選手権、全国選手権、地方選手権又はその他の選手権出場に對して支払ふ理由が何処にあるか？。

雇は無数の悪弊のために開けられる。

人気のある優秀選手がブローカーン・タイムに對して支払われるならば、その競技者は試合する以外何んにもしなくなる誘惑に陥る。

米国ではブローカーン・タイムに支払いせず、或るスポーツが単に規程を緩和しただけで、アマチュア競技者が全時間を試合にさしげ、法外な剩費で暮らしたという事実をわれ／＼は見えてきている。

古代ギリシヤでクセノファネスは『全ギリシヤが百萬の悪で満ちあふれようと、競技者という蛮族より悪きはない』と書いた。

これは心身の平衡せる発達を競技の目的として全人

のためにあるといふ高い競技者理念が、過度の熱狂で生じた悪によつて葬られた時に書かれたものである。

アマチュアリズムの放棄

若し國威の発揚がわれ／＼のスポーツのプログラムの主要な目的であらねばならず、競技者がその國の声誉を守る兵士と考えられ、誰も経済的理由で國を代表することを妨げられるのではなく、そしてこのために別の規程を採用するならば、われ／＼アマチュアリズムを放棄するだろう。

勝利者ではあるが最も良きアマチュア競技者ではない、そんな人を作るのは大きな資源と金をもつて國である。これがクーパーマン男がオリンピック競技を復活した時に公式の得点表を賢明にも設けなかつた理由である。

要するにわれ／＼アマチュア・スポーツの世界に属するものは、単独に社會の再編成を期待できない。

誰か、試合参加についてわれ／＼に義務を負つているといふ理論は、政府が生活についてわれ／＼に義務を負ふという理論と同様に誤謬である。

若し或る國で人々がプレーできない程貧乏だとすれば（これは疑わしい）、われ／＼にアマチュア規程を低くせよと要求する代りに、政府をして彼等が余暇もてるよう生活水準を高くさすべきだ。

このように事柄が發展すると止まるところを知らない。

これは職業化に對してうち込まれるくさびである、職業化はオリンピック競技を商業化し、アマチュア・スポーツの完全な構築とオリンピック創設に費いやした年月と努力を廢墟にうちくたくものである。『状態は變化した』といわれる。

これは一体何を意味するか？。

社会学者は人々は以前よりもより多くの余暇と金をもつことを認めている。

アマチュア・スポーツにおける四十年以上の経験では、かつて貧乏の故にオリンピック競技に参加できなかった人は、一人といえども聞きもしない。しかし尊い本業にたずさわるため参加できなかった人は多数ある。

何故これ等少年のために何らなすところがなかつたか？。

これこそ論理的には一つの提案である。

競技者のために

アマチュア・スポーツは競争者のためにある、競技者が重要であつて見物人は附随的存在である。

これは所謂プロ・スポーツと議論の余地がない、プロは本質の意味で全くスポーツではなく、娯楽興業の一つである。

プロ・スポーツでは見物人が重要である。

競技者はプロ・アマ何れを選ぼうと自由である、しかし選択は正直であらねばならぬ。さらにどんな方法でも彼の成果を資本化したならばアマチュアの仮面をかむつてはいけない。

現代社会の教々の欠陥や悪弊は今日伸び広がるがたいまいまいしい物質主義から発生している。

人生における最も重要なことは金で測定できない。常に犠牲を伴ふが故にそれに備する物事の到達がある。

若し人が世界一周旅行をしようとするれば、彼が家に止まれば得られる利益を失ふ。人は菓子をもつていようとすれば食ふことはできない。無から有を生じな

い。弗よりも価値あるものを持たぬ人は誠に気の毒である。

若し組織されたアマチュア・スポーツ又はオリンピック運動が何等かの価値をもつていふとすれば、それはこのアマチュアリズムの高い理念と良いスポーツマンシップの故である。この標高は低下させてはいけない。

(以下次号)
(本学講師)

眞夏の夜の夢

ソ連副首相ベリヤがマレンコフ首相と権力争いをして敗けて追放され逮捕された。これも「邪魔者は殺せ」的な色彩が濃厚。成程この追放にも尤もらしい名目は与えられている。曰く「資本主義国家に対して利益を与へわが国の團結を破壊する陰謀に加わつた」。これでは追放はおろか死刑ものだろう。しかし実際これは取り様でどうでも取れる話、ガイシンスキーあたりが主幹事となつて裁判をして罪状を指摘するというからそれはそれとして、随分ひどいやり方だ。大体この「邪魔者は殺せ」式の考えは大なり小なり所謂テロリズムに通ずるもので新聞やラジオで放送されない迄もわれわれの周囲にこれに似たことがよくある。「陰謀」、「暗殺」、「謀殺」等々。『俺は何某の陰謀によつて敗れた』とうそぶく落選代議士、こんどの人事は某派抹殺を企む秘密人事だと広言するスツパ抜き新聞、小さい日本にも小さいなりのこうした事件がある。これらの一番大きな原因は陰險な独裁にある。独裁者に集

約された強力な権力が唯ある特定者の利益にのみ走ることが原因である。幸いにして日本はアメリカから民主主義という有難い主義を頂いてこうしたシステムは排除出来る様に憲法でちゃんと決めてもらつてゐる。所がその憲法の下で国会でこの陰謀が絶間なく行われ、果ては有難い憲法迄を独裁者向きに変へようと試みる。憲法を変つて最も利益があるのは自分か他人か。ある何かの本で読んだが、国会で提出される法案は全国民の福祉を考える名目でその実はある特定者の利益を守り増加するのにある。そう云われて見るとそう思わないでもない。内難の試射場再開で最も硬直だつたのは兵器会社だつたそうだし九州水害で政府が九州臨時政府といわれた対策本部を立て、力んだ所で単に金つるへのゼスチャにしか見えないうし、とかく裏をながめるのも面白い。小いながらも一國の政府であればどこかにロスもあり又そのロスで生きる人もあつてさまだまだが、われわれサラリーマンにそれをやられるとたまらない。特定の人の顔を立てる為他の全部が下敷きになつたり、実質上の生殺与奪の権を握る人が風のまにまのアドバルーンみたいな思いつきにバサリバサリそのダンビラを振りまわすと寄るな寄るなと結局は三すくみ、折角傳家の宝刀も赤鯉同様にねえ、つかまつた。あわやわが命も……助けてくれ……はつと目が覚めたら夕刊を読みながらのうた、寝、ベリヤ追放の活字が目に入らんでやれやれと安堵恐るべきは世にはびこる大小のテロリスト達。(O)



学生

決勝に破れ第二位

関西六大学
野球リーグ

文化祭盛大裡に終へ
学生は夏季休暇へ

緑滴たる千里山の丘に、青春の血潮を燃やし、体育、文化、学術、と各クラブ活動に精進している学生、若き日の夢と大空一杯に描いて、可能な限りそれを実現しようとする。此の様な若き日の思いは社会人となつて後々迄も微笑ましい追憶を胸に焼き付けるものとなるだろう。今月も此等のものゝ中から一つ二つとりあげて此等の動きをクローズアップして見よう。

文化祭 憂鬱な梅雨の雨が今年の長期予報に反して本格的梅雨となつてしまつた。そのような七月七、八の両日昨年に引き続き、大阪の文化センターの中心となりつゝある産経会館で文化祭一年間の最大行事である文化祭が開かれた。

第一日午前九時三十分校道雄副執行委員長の開会の辞に幕をあげ会場を埋め廊下に溢れた学生の拍手を浴びて降壇、今年から発足した放送部が進行を担当し、文化祭スケヂュールを円滑に進めるのに大きな役割を果たすことが予想される。続いて雄弁会の弁論、一〇時から軽音楽部ハワイアンバンドが遠い郷愁をかきたてる。一〇時三〇分朝鮮同友会の学

生達による舞踊楽劇、「踊る春香伝」が開をあげる。異国情緒と淡い哀愁が頭の中であざめる。二一時一〇分から大江司郎君の指揮によるグリーククラブの合唱が会場に流れ出し文化祭の感興を盛りあげて行く、正午前岡野学長が病気の為出席

挨拶が出来ないので木村法学部長の挨拶がされる。その次には頼みに練習を積み関西でも定評のある軽音楽部ハワイアンとタンゴバンドがフットライトを浴びて登場軽いリズムの流れが我等の耳を楽しませてくれる。更に番組は謡曲部の舞躰子、番囃子、仕舞、再び軽音楽部のK・Uクワルテット、O・Bクワルテットが順次登場ポプユラアーなものを演奏、続いて邦楽部による長唄、越後獅子・箏曲・千鳥の曲、長唄、藤娘に日本の芸術の良さ"それは今の学生には少し理解し難いものであるけれども"を見せて呉れた。態々番組も終はりに近づいて、学園座がアルト・ハイデルベルグを上演、十

に終り、副執行委員長藤本幸雄君の開会の辞があり一応文化祭第一日の幕を閉じその後映画研究部により、記録映画「関西六大学」及び「オルフェ」が上映され午後十時三十分過ぎ楽しい一日を終はり少々遅くなり、静かな大阪駅前を思い思いに家路についた。

第二日各日は第一日目は曲目や題目を変へ再び前日に勝る熱心な演出、演技をなしたが、特に本年の特色としては、新発足した放送部が公開録音として、「コメディショー」と放送劇、「サウザント人生・学内見学急行列車の巻」に文化祭に新鮮美を加えた。実にもう一つの特色は体育会各部長が各々のユニホーム姿で登場、体育会、部長松本純一君の文化部に対しての挨拶と花束の贈呈は体育、文化の融合を示した。その後前日登場しなかつた交響団が北清市君の指揮により、ハイドン作曲、時計、ヨハンシュトラウス作曲芸術家の生涯を演奏、第一ヴァイオリンは昨年とは見違へるばかりの上達を見せていた。此のようにして二日間になつて行はれた文化祭は濛濛なく終つたが、観覧している学生の態度は必ずしも満足出来るどころ迄充分洗練されていなかったことは残念なことであつたが、兎にも角にも此れだけのスケヂュールを誤りなく終ることが出来たことに對し、此等を準備、計画し、実行に移し、完了した各学生の努力は充分高く評価されね

ばならない。

放送部 発足以来急速に発展した当部は、朝日放送の側面的な援助を得て、関々同立の四校が放送連盟を結成し、A、B、Cの電波に毎月乗つて学園放送しようとしている。亦文化祭には進行を担当し、各部の演し物の紹介アナウンス、公開放送等に大活躍をした。

映画研究部 前月大学院講堂での映画鑑賞会に引き続き、七月五日午後五時より中之島公会堂に、春原理事、小野十三郎、中井教授、寺西市会議員(順序不同)の方々を招き、関大記録映画、カルメン純情す、パリーの下セーヌは流れるを上映、観衆一千五百を集め盛會裡に散会したが、本年度映画部の活躍は注目に値する。

野球部 一勝一敗の後を受けて十六日西宮球場で行はれた関西六大学野球優勝戦は関学は一回裏に調子が未だ整はない吉村投手を攻撃二点を先取、本学は順次に地方を發揮、五回七回一点づつを奪回同点に持ち込んだが、その裏一点を加えられ、最終回の好機も空しく春の覇権を失い、今年こそは春には弱いというデunksを破るかと思はれたがその通りになつてしまつた。

関々戦及び其の後の戦績は次の通りである。
六月十六日

関大 200001010002 於西宮
 関學 2000000100A3

六月二十三日より行はれた阪神地区新人戦

六月二十三日

関大 100010000002
 神大 000000200002

六月二十四日

関大 20000100003
 関學 20000100003

之の結果阪神地区で二位となつた。

柔道部 第三回関西学生柔道大会は豊富な持駒と練習量に物を云はせ、圧倒的に制勝したが、個人戦でも堀田が学生柔道界で常に脅威的存在と目されていた同大、石田を小内で業ありをとり、以後試合を有利に進め遂に個人の栄冠をも奪い団体、個人共に優勝と云う偉業を為し上げた。当日の記録は次の通りである。

団体 準決勝 関大5-0 関學
 決勝 関大5-1 同大

○山村 固め くれ上四方 渡辺

○三浦 優勝 呉松

○林田 優勝 西良

○藤勝 優勝 北良

○菱山 固め くれ上四方 位田

○原田 引分 本郷

堀田 大外刈 石田

個人戦には堀田、原田が進出

準決勝 原田 優勝 石田
 (関大) (同大)

○堀田 送り駒
 (関大) 足払い (天理短大)
 (関大) 優勝 石田
 (同大)

拳闘部 関西学生ボクシングに無敵同士の関学との対戦となつたが、15-12で

今年の関西の覇権を握り関東の覇者日大と全日本の王座を争うこととなつた。

6月12日 関大 15-12 関學

ジュニヤ 河戸 判定 中塚

フライ級 吉津 判定 佐藤

〃 黒川 判定 坂東

バンナム級 〇三国 TKO 武内

〇稲葉 判定 高島

フェザー級 〇安田 判定 辻木

〇成瀬 KO 二回1分13秒 長浜

ライト級 〇尾白 判定 平田

ウェルター級 遠藤 KO 川島

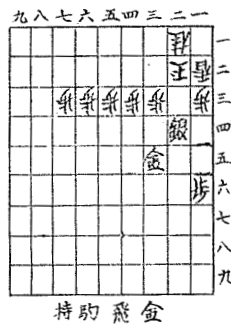
次いで六月十九日、日大と全日本の王座を争つたが各クラス僅少の差で惜敗したが、今年活躍の新人の将来が楽しみです。



考へ物新題

一 鶴学人

前回の詰将棋の問題に大変な間違ありまして将棋愛好者の各位に一方ならぬ御迷惑をかけたことを厚く御詫び申上ります。あれでは一六の歩は勿論、三の五の金がなくても詰みますし、歩留めの妙手も何もあつたものではありません。少し心得のある方ですと一見して誤りのあることが、お判りになると見えて影山君他二、三の方からの々胸紐や持駒を変えて御解答を賜つたには恐縮しまし



た。正しい問題は次に示す通りで、今度こそ間違いありませんからもう一度考えて見て下さい。「何んだ、やつぱり直ぐ詰むぢやないか」と云はれる方は棋力抜群の有段者か筆者のように鴨になる可能性の多い方かの何れかです。大道将棋と云うことを念頭に置いて攻防の変化をよく検討して下さい。

それからもう一つお断りを申上ります。今度は嬉しいお報せですから書くはありがあります。前回に七五三の問題の正解者は大西さん唯一人であつたと男子の学生諸君にとつていさか耳ざわりな報告をいたしました。その後二部の学生の方から正解者が出ました。「先日帰郷した際この問題を思い出して大阪姫路間の往復四時間の間熟考しました。雲をつかむような手がかりのない問題で上手く行かず、帰宅と同時に解けた時は精も魂も盡き果てました」と前書きして経済学部の高野一郎君から解答を寄せられました。前月号に紹介した大西さんの解答と同様の一点の非の打ちどころのない正解でした。原稿を学報局に発送した後でしたので茲に追加報告をさせて頂き、精魂を盡して奮闘された高野君の努力に対し深く感謝の意を表します。

問題、上に示す詰将棋の詰手を求む。但し攻防の変化を詳細に記入のこと。

お知らせ 波瀾万丈幾多諸賢を苦しめた考え物新題は一応これで打切りに致します。御多忙中懇々御執筆下さつた太田雞一先生に感謝すると共に御激励を賜つた読者諸賢にもお礼申上げます。

x x

(係)

七十年史ぬきがき

春 原 源 太 郎

大学図書館の天野君の好意で明治三十年に発行された「関西法学雑誌」

護士になつた頃の老大家の名も見え本学に關係の深かつた人が多い。

(一—三)を見る事ができた。そのなかに毎号本学草創十年の頃を回顧させられる記事があり、「関西法律学校」の試験問題なども掲載されている。私は数年前から江戸堀や河内町時代の筆墨ノートや試験問題などを見たいと思つていたが、その機会なく、この時代に在学された先輩も居られるであろうし「七十年史編纂」を目前にして、想ひ出の資料を寄せて頂くために、この雑誌から回顧的なものを抜書してみる。

創刊号の巻頭祝詞は大阪控訴院長北島治房氏の文であり、雑誌の性格は発刊の辭に「主トシテ関西ニ於ケル斯道ノ顯揚開明ト提擧號吹ニ任スル有ラン而巳」とあるように論説、雜報、第三審としての大阪控訴院判例を掲載した特色あるものである。

司法省指定「関西法律学校」の性格を理解するにも便宜であろうと思ふから、当時の法学回顧をこの雑誌から一、二拾つてみよう。

大鐘彦市氏(弁護士、元本学監事)「民法綱要第一巻緒論」として「第一章法律研究ノ方針」(第二号)「第二章法学及法術」(第三号)があるが、その文章は「法律ノ大体ヲ研究スルニ當リテハ先ツ其始メニ於テ法律ノ何タルカヲ知ラサル可カラズ而シテ法律ノ何タルカヲ知ラント欲セバ先ツ須ラク學問ノ何タルカヲ知ルヲ要ス、之レヲ以テ吾人ハ先ツ學問ノ何タルカノキ次ニ法学ノ性質ヲ講シ最後ニ法学ト法術トノ關係ヲ論セント欲ス、凡ソ天地間

「関西法学雑誌」といふのは、この雑誌の広告によれば「発行定日毎月一回二十五日」となつてゐるが第一号は明治三十年三月三十日第二号四月二十五日第三号七月十日その後どう続いたか入手されないのだから。「定価一冊金十銭」この雑誌の発行者安原権吉、編輯者松村敏天、印刷者日野国明、幹事香川季三郎これらの人々はいづれも大阪の弁護士で、寄稿者、賛成者などの内には私が弁

ノ事物ハ——」「法学ハ法律ノ原理ヲ知ルノ學問ナリト云フヘク又詳ニ之ヲ曰ハ、法学ハ法律ニ関スル各種ノ現象中ヨリ普通の元素ヲ取り来リテ之ヲ知ルノ學問ナリト稱セサルヲ得ス」といふような文章で、この論文の序は清浦奎吾氏が書いてゐるが、いわく「修正民法其文簡其義該説語創定民法各章約而概括博有奉行遵守之責——」の如くである。

当時の大阪控訴院は堂々たる組織で、民事は第一部から四部まで刑事第三部まであり、各部は判事五名で構成されてゐる。(第一号)このなかに「関西法律学校に關係された方々も多いであろう。判例のうちには妾關係の維持を目的とする契約の性質を論じ「夫妻ノ關係ハ善良ノ風俗ニ背反スル法禁ノモノニアラス」とし「我習慣上其人アルヲ認ムルモノトス」(明二九(ネ)五八八六)とするもの、村と村との「江敷代米請求事件」といふような難しい事件もあり「証書ニ御扶持人又ハ十村ト稱シテ裏書調印アルニヨリ之ヲ公正証書トシテ採用センニハ其職役ハ庄屋ノ如キ昔時一般ニ任設セラレタル村役人ニアラサルカ故ニ」など、江戸時代の庶民法的臭味の抜けきれていない事件があるのも興味あることである。

そこで本学の歴史の一部を記事のなから紹介してみよう。
「関西法律学校記事」といふのが法学雑誌に毎号大きく取扱われているといふことは、大阪における唯一の法学教育としていかに重きをなしていたかを誇示するもので、当時の校長は一瀬勇三郎氏講師は「最も其籍を抜き其数五十名」「関西第一の専門学校として比隆するものなきは勿論東京五大法律学校を凌駕するの評ある偶然にあらざるが如し」学舎は河内町時代で第三号に暑中休暇を利用して講堂増設の記事がある。年代を理解しやすいために白川理事長にお尋ねしたら在学されたのが二十七年とのことであつた。

その年判檢事、弁護士試験の改正により教科の改正が行われている。
入試試験といふものはなく「当期大試験」に應ずる資格を得ることが重要で試験は臨時学力試験、定時小試験、定期大試験で「六月二十三日より七月九日迄定期大試験を執行し同十日卒業期生に就き口述試験を行ふ」暑中休暇は「例年の通七月十一日より来る九月十日まで休校」であるから現在と同じようなものである。
定期小試験問題があるので(第一号)これを見ると第一号科刑事訴訟法
第一問、公訴權の何たるを弁明し延びて公訴の性質に論及すべし

第五問題、第二年科刑法

第一問、純粹の内乱罪なる者を説明し併せて其陰謀予備未遂既遂及自首の場合を説き之に關する刑罰の度を示すべし

その他例題があり、第三年科民事訴訟法
第一問、妨害抗弁と他の抗弁との差異及び其理由並に其差異に伴ふ結果如何(外一)

また第三号には第一年科刑法、第二年科民法、第三年科商法の試験問題がある。

第二号「不動産二重売買ノ刑法上ノ責任ヲ論ジテ冒認罪ノ被害者ニ及ブベシ」
「解除条件附売買契約ノ目的物カ条件ノ未タ到来セサル以前ニ於テ滅失シタルトキハ売主ハ買主ニ対シテ代償返還ノ義務アリヤ」の論文は関西法律学校生徒田中義一、新谷清澤兩氏の寄稿で、六十年程前の先輩在学時代の勞作であることを回顧される。
(本學理事)



お知らせ

八月号は都合により休刊致します。夏休暇明け多数御投稿お願いします。

第二六一號 目次

卷頭言	白川朋吉 (2)
校友總會	(3)
校友會地方支部長懇談會	(6)
校友總會隨想	(7)
學內報	(11)
圖書館長、短大部長更迭—大島鎌吉氏 渡歐—人事異動—人事往來	(12)
校友	(12)
校友總會準備委員會—代議員證衡委員會— 十九學會—和歌山県支部總會—姫路支部總會— 高槻支部發足—阿倍野支部結成—大阪 郵政支部春季總會—岡山県支部總會	(16)
アマチアリズムの擁護者	(19)
真夏の夜の夢	(20)
學生	(21)
考へ物新題	(22)
七十年史ぬきがき	(22)
編集後記	

【編集後記】

◇校友總會も盛大裡に無事終了、全国各地から千余の校友が参加して久しぶりの盛会。本号は特に題して校友總會号、収録した写真はみんな学報局大騒動して撮影したもの。

◇次第に暑さも加わり愈々酷暑近しの感七月月上旬九州大水害の報に被害地区の校友各位の安否を氣遣うことしきり。

◇学報も夏休を頂戴して八月は休刊致します。御了承下さい。読者諸賢の各地夏日より伺いたいもの。尙遅れ馳せ乍ら暑中御見舞を申上げて擱筆します
(〇)

昭和二十八年七月十日印刷
昭和二十八年七月十五日發行

関西大學學報 第二六一號

一年誌代費三〇〇円(送料共)

大阪府大淀区長柄中通二丁目二番地
編集者 久井 忠 雄

大阪府北区川崎町七
印刷者 西井 幾 藏

大阪府北区川崎町三七
印刷所 株式会社 ナニワ印刷所

電話堀川(七三〇)二番
電話堀川(三一九)三番

大阪府大淀区长柄中通二丁目

發行所 関西大學學報局

電話堀川(三六)一七五六番
振替 大阪二六七二番

電話堀川(三六)一七五六番
振替 大阪二六七二番

**RECENT ACQUISITIONS OF
FOREIGN BOOKS
February through March, 1953.**

STATISTICS

- Tischer, Arthur. Grundlegung der Statistik: 1929. 211p. 350 T1 1
Westergaard, H. Grundzüge der Theorie der Statistik. 1928. 640p. 350 W1 1
Brookes, B. C. Introduction to statistical method. 1951. 288p. 350.1 B1 1

SOCIOLOGY

- Helmholtz-Phelan, A. A. The social philosophy of William Morris. 1927. 206p. 360.1 M7. H 1
Popper, K. R. The open society and its enemies. 1952. 2v. 360.1023 P1 1-1/2
Lorenz, Charlotte. Forschungslehre der Sozialstatistik. Bd. 1. 1951. 400p. 360.15 L1 1
Steinbüchel, Theodor. Sozialismus. 1950. 343p. 369 S5 1
Simon, Helene. Robert Owen und der Sozialismus. 1919. 134p. 369.1 01. S 1
Eaton, John. Marx against Keynes: a reply to Mr. Morrison's "Socialism". 1951. 141p. 369.4 E2 1

MILITARY AND NAVAL SCIENCES

- Clinard, Outten Jones. Japan's influence on American naval power, 1897-1917. 1947. 235p. 397.025 C1 1

ENGINEERING

- Duncan, Acheson J. Quality control and industrial statistics. 1952. 663p. 501.1 D2 1

PRODUCTIVE ARTS

- Hardin, Charles M. The politics of agriculture: soil conservation and the struggle for power in rural America. 1952. 282p. 611.1025 H1 1
Shepherd, G. S. Agricultural price and income policy. 1952. 288p. 611.1025 S1 1
Rassweiler, M. Fundamental procedures of financial mathematics. 1952. 260p. 670.11 R1 1
Taintor, S. A. The secretary's handbook. 1952. 573p. R O 670.18 T1 1
Peragallo, E. Origin and evolution of double entry bookkeeping. 1938. 156p. 679.02 P1 1
Köhler, Eric L. A dictionary for accountants. 1952. 453p. R2679.103 K1 1
Lehmann, Bruno. Die Praxis der Kostenrechnung unter Berücksichtigung der Kostenrechnungsrichtlinien. 1949. 143p. 143p. 679.5 L2 1
Neuner, J. J. W. Cost accounting. 1952. 828p. 679.5 N1 1
Haas, Robert. Recht und rechnungswesen. 1949. 754p. 679.6 H1 1

FINE ARTS

- Barr, A. H. Mairre: his art and his public. 1951. 591p. 723.5 M1. B 1
Valmy-Baysse, J. Naissance et vie de la comédie française. 1945. 543p. 773.5 V1 1

LANGUAGE

- Wyld, H. C. The growth of English. 1948. 206p. 830.2 W2 2
Jelinek, Franz. Mittelhochdeutsches Wörterbuch zu den deutschen Sprachdenkmälern Böhmens und der mährischen Städte Brünn, Iglau und Olmütz 1911. 1028p. 843 J1 1
Grosjean-Maupin, E. Plena Vortaro de Esperanto. 1947. 511p. 898.03 G1 1

LITERATURE

- Schorer, Mark. Criticism: the foundations of modern literary judgement. 1948. 553p. 904 S2 1
Hendersom, P. William Morris. 1952. 43p. N 930.28 M1. H 1
Spencer, T. Shakespeare and the nature of man. 1951. 232p. 930.28 S1. S3. 1
Swinnerton, F. Arnold Bennett. 1950. 32p. N 930.28 B1. S 1
Warner, S.T. Jane Austen. 1951. 35p. N 930.28 A1. W 1
Bentley, P. The Brontë sisters. 1950. 44p. N 930.28 B1 1
Auden, W. H. Collected shorter poems, 1930-1944. 1950. 303p. 931 A2 1
Donne, John. The poems of John Donne. 1951. 2v. 931 D3 2-1/2
Lewis, C. D. Collected poems, 1929-1936. 1948. 215p. 931 L1 1a
Natthiessen, F. O. The achievement of T.S. Eliot. 1947. 202p. 931 E1. M 1
Orwell, G. Coming up for air. 1948. 237p. 933 02 1
Orwell, G. Nineteen eighty-four. 318p. 933 02 2
Woolf, V. To the lighthouse. 1951. 319p. 933 W3 9
Orwell, G. Shooting and elephant, and other essays. 1950. 212p. 934 01 1
Michel, W. Das Leben Friedrich Hölderlins. 1949. 540p. 940.28 H3. M 1
Hölderlin. Sämtliche Werke. 1949. 4v. 941 H3 1-1/4
Hesse, H. Gerbersau. 1949. 2v. 943 H1 1-1/2
Hesse, H. Kleine Welt: Erzählungen. 1947. 385p. 943 H1 4
Hesse, H. Marzirr und Goldmund: Erzählung. 1951. 410p. 943 H1 3
Hesse, H. Siddhartha: eine indische Dichtung. 1951. 172p. 943 H1 2
Kafka, F. Erzählungen. 1946. 321p. 943 K2 1
Hesse, H. Gedenkblätter. 1950. 303p. 944 H1 1
Hesse, H. Späte Prosa. 1951. 194p. 944 H1 2
Jones, P. M. The background of modern French poetry. 1951. 196p. 951.01 J1 1
Pillement, G. Anthologie du théâtre français contemporain. 1945. 3v. 952.08 p1 1-1/3
Chase, R. Herman Melville: a critical study. 1949. 302p. 960.28 M1. C 1
Knight, G. C. The critical period in American literature. 1951. 208p. 960.4 K2 1